

# 日清オイリオグループ CSR報告書2007

「おいしさ・健康・美」を追求する  
私たちの社会的責任



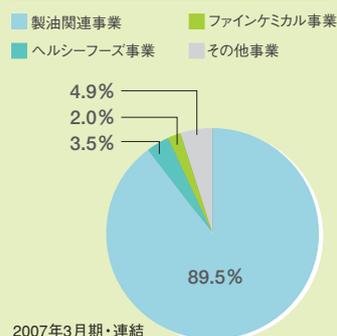
## 会社概要

商号	日清オイリオグループ株式会社
本社	〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号 電話(03)3206-5005
代表者	取締役会長 秋谷 浄恵 取締役社長 大込 一男
創立	1907年(明治40年)3月7日
資本金	16,332百万円(2007年3月31日現在)
売上高	2,416億6千8百万円(2007年3月期・連結)
経常利益	102億3千4百万円(2007年3月期・連結)
従業員数	2,601名(2007年3月31日現在・連結)
事業所	本社、大阪事業場、横須賀事業場(中央研究所)、横浜磯子事業場(横浜磯子工場)、名古屋工場、堺事業場、水島工場、札幌支店、仙台支店、関東信越支店、東京支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡支店、郡山営業所、新潟営業所、長野営業所、埼玉営業所、西首都圏営業所、横浜営業所、静岡営業所、北陸営業所、四国営業所、岡山営業所、鹿児島営業所、横浜神奈川事業所(2007年3月31日現在)
グループ企業	攝津製油(株)、日清商事(株)、日清物流(株)、(株)NSP、(株)マーケティングフォースジャパン、日清プラントエンジニアリング(株)、(株)ゴルフジョイ、日清サイエンス(株)、日清マリンテック(株)、日清コスモフーズ(株)、もぎ豆腐店(株)、大連日清製油有限公司、上海日清油脂有限公司、SOUTHERN NISSHIN BIO-TECH SDN.BHD、日清奥利友(中国)投資有限公司、INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN. BHD、日清ファイナンス(株)、ヤマキウ運輸(株)、陽興エンジニアリング(株)、和弘食品(株)、(株)テンコーポレーション、幸商事(株)、(株)日清商会、アイロム製菓(株)、統清股份有限公司、張家港統清食品有限公司、日清オイリオ・ビジネススタッフ(株)(2007年3月31日現在)
統合・合併の経緯	2002年4月日清製油(株)、リノール油脂(株)、ニッコー製油(株)の3社が経営統合し、日清オイリオグループ誕生。  2004年7月に日清オイリオグループ(株)、日清オイリオ(株)、リノール油脂(株)、ニッコー製油(株)の4社が合併して、新生・日清オイリオグループ(株)がスタート。

連結売上高(百万円)



事業別売上構成



連結経常利益(百万円)



## 編集方針

日清オイリオグループは、2000年から毎年「環境報告書」を発行し、植物資源を活用する企業として地球環境問題への取り組みや考え方を報告してまいりました。そして昨年からは、環境の側面だけでなく、広く社会および経済的な側面において日頃から積み重ねてきた取り組みも報告することが、企業が社会に対して果たすべき責任（CSR）に結びつくものであると考え、その活動を「CSR報告書」としてまとめました。今回が2度目の発行となります。

### 目的

この報告書は、お客様、取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、社会・環境など、日清オイリオグループを支えてくださるさまざまなステークホルダーの皆様に、当社が社会的責任についてどう考え、どのような取り組みをしているのかについてご報告することを目的としています。

### 構成

この報告書は、日清オイリオグループの事業内容などについてご紹介したあと、特集として、創立100周年を迎えた当社のこれまでのさまざまな取り組み、ならびに次の100年へ向けた従業員の「想い」を掲載しています。また、当社が掲げるCSRへの基本姿勢、ステークホルダーごとの取り組み内容をご紹介します。

### 報告範囲

環境・経済パフォーマンスデータについては、日清オイリオグループ株式会社を報告対象範囲としていますが、CSRに関する取り組みについては、海外を含むグループ企業の活動も掲載しています。

### 報告対象期間

2006年4月1日～2007年3月31日

\*一部、当該期間外における取り組みが含まれています。

### 参考ガイドライン

この報告書は、GRI※の「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」、環境省「環境報告書ガイドライン（2003年度版）」、「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン（2002年度版）」を参考に作成しています。

※Global Reporting Initiative：CSR報告書のガイドライン作りを使命とするNGOで、オランダに本部を置き、UNEP（国連環境計画）の公認協力機関

### 発行

2007年6月（次回発行2008年6月予定）

# Contents

会社概要	02
編集方針	03
トップコミットメント	04
事業領域と商品	06
“植物のチカラ”を引き出す技術	08
日清オイリオグループの海外展開	09
特集① 日清オイリオグループ これまでの100年のあゆみ	10
特集② 次の100年に向けて	14
日清オイリオグループのCSR	16
ステークホルダーの皆様からの期待と私たちの活動方針	18
CSRを支える基盤	
コーポレートガバナンス	20
コンプライアンス	22
リスクマネジメント	23
お客様とともに	
● 品質を向上させるための取り組み	24
● お客様への情報提供の取り組み	28
取引先様とともに	
● より良い商品づくりのための取り組み	29
株主・投資家の皆様とともに	
● 適切な情報開示の取り組み	30
従業員とともに	
● 一人ひとりのチカラを引き出すための取り組み	32
● 安全で働きやすい職場づくりの取り組み	34
社会のために	
● 社会とのコミュニケーション	36
環境のために	
● 環境マネジメント推進体制	38
● 環境目標と実績	40
● 製品ができるまで	41
● 地球温暖化防止の取り組み	42
● 廃棄物削減の取り組み	44
● 環境リスクマネジメント	45
● 管理部門での環境活動	46
● 環境関連投資・費用・効果	47
● 生産部門の概要	48
CSR活動のあゆみ	50
第三者所感／編集後記	51

# トップコミットメント

## 100年の長きにわたり、 いただいた「信頼」に感謝

今年、日清オイリオグループは創立100周年を迎えました。一世紀という長きにわたって事業を展開してこられたのも、皆様からのご愛顧の賜物と心から感謝しております。

創立の日から、食卓をとおして人々の栄養改善や健康の維持、向上に取り組んできた私たちに、社会の皆様からいただいていた「信頼」こそが、100年間で培った大きな財産であり、もっとも大切にしなければならない宝物だと襟を正しております。その認識をあらためて胸に刻み、社会への恩返しという意味でも、これからますますCSR (Corporate

Social Responsibility:企業の社会的責任) に対する取り組みに力を入れています。

## 2006年度の取り組み

「おいしさ・健康・美」の追求を事業展開のコアコンセプトとする私たちのCSRは、経営理念の実現を通じて「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」です。法的な責任を果たすことはもちろん、グループの役員・従業員一人ひとりが、安全で安心な商品・サービスを安定的にご提供すること、CSR報告書を含めた適切な情報開示、人材の尊重と活用、安全・防災や環境への取り組み、社会貢献活動を積極的に推進していく

ことで、「顧客、株主、従業員、社会・環境」をはじめとするすべてのステークホルダーに満足していただく。これこそが、日清オイリオグループのCSRだと考えています。

2006年度の活動を振り返ってみますと、昨年4月にCSRの行動指針とも位置付けた改訂版の「日清オイリオグループ行動規範」を全役員・全従業員に配り、グループ内におけるCSR意識の徹底を図りました。秋には企業倫理講演会を開催して、企業倫理に対する取り組みの理解と啓発を行ってまいりました。また、ボランティアに参加する社員が休暇をとることができる「ボランティア休暇制度」の検討を進め、今年4月からの制度導入に結びつけました。そして、内部統制システムについては、2008年4月の制度化に先駆けて導入する準備を進めてまいりました。もちろん、2007年度から始まる新しい10ヵ年経営基本構想“GROWTH 10”でも、CSRへの積極的な取り組みを掲げております。

こうした活動とともに、私たちが大切にしていることは、「企業の透明性」です。情



日清オイリオグループ株式会社  
取締役社長

大 辺 一 男

報開示はもちろんのこと、外から見てどのような活動を行っているのかわかる、そのことにより、公正さ(フェアネス)を持った企業であり続けることができると考えております。その意味では、昨年初めて発行した「CSR報告書2006」によって、私たちの考え方・活動を、より多くのステークホルダーの皆様にお伝えすることができたことは大変良かったのではないかと考えております。

## “植物のチカラ”を活かすことが使命

いま、企業が「待ったなし」で取り組まなくてはならないのが「地球環境を守ること」です。リサイクル、省エネを心がけることはもちろんですが、各企業が「自分たちに何ができるのか」をここで一度、立ち止まって考えるべきだと思います。たとえ即効性がないことでも、必要だと感じたらじっくりと腰をすえて取り組む、そのような時期にきているのではないのでしょうか。

“植物のチカラ”を活かして製品づくりや事業を展開してきた私たちは、環境分野でも、“植物のチカラ”を利用した積極的な取り組みをしていきたいと考えております。昨年立ちあげたエコリオ事業では、環境に貢献できる植物の可能性に取り組んでいます。現在研究中のテーマの一例として、汚染された土壌を、植物油によって活性化された微生物が無害化するという技術があります。これはまさしく“植物のチカラ”を活用して地球環境に貢献できる技術であると思います。次の世代にもこの美しい地球を継承するために、CSRの一環としてもぜひ実現し、社会に貢献したいと考えています。

## 食べることの重要性を訴える

現在の日本は飽食と言われていますが、これからは基本にもどって「食べることの重要性」を見なおす時代にはいつてきていると考えています。特に私たち食品産業は、食べることの重要性を訴え、食べ物を皆様へ安定して提供していくという



責任を負っています。

ご存知のように、いま世界では植物資源が石油の代替エネルギーとして大量に使われつつあります。たとえば、ヨーロッパではバイオディーゼル燃料としてなたね油を、インドネシアやマレーシアではパーム油を使っています。世界の人口が増えていくなかで、人が食べられる農産物をエネルギーとして消費することに懸念を抱いています。「なんとか、食用でない植物で代用できないだろうか」と考え、研究に取り組んでいます。

20世紀は、「石油の世紀」と言われてきました。そして、この21世紀は「水の世紀」とも「食糧の世紀」とも言われています。食糧資源を大切に、食品として安定供給を続けることが私たちの大きな使命だと考えています。

創立100周年を迎えた日清オイリオグループは、これから新しい世紀へと踏み出すわけですが、これまでの100年にいただいた「信頼」を心に刻み、次の100年も皆様から信頼していただける価値ある企業として、さらなる成長を目指していく所存です。ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、積極的に社会的責任を果たし、ご期待に応えてまいりたいと思います。この報告書をお読みいただき、ぜひ忌憚のないご意見や率直なご感想をお寄せいただければ幸いです。今後もより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 事業領域と商品

“植物のチカラ”を最大限に引き出し、「おいしさ・健康・美」を追求するため、幅広い領域で事業を展開しています。

私たちは、1907年の創立以来、食用油のリーディングカンパニーとして、植物がもつ3つのチカラ、「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」を最高の技術によって引き出し、世の中にお届けしてきました。

この100年間、“植物のチカラ”の可能性を追求し、食用油を中心とする製油事業では技術力を活かした高付加価値商品を提案するとともに、アジア市場へビジネスを広げています。

また、健康をキーワードに新しい価値を誕生させているヘルシーフーズ事業、さまざまな産業分野に機能性素材を提供するファインケミカル事業など、事業領域も拡大しています。

これまでの100年で培ってきたものを、さらに成長させながら、次の100年も“植物のチカラ”を、人の歓びに、人の元気に、人の潤いに変えていくことを目指します。

**NISSHIN**  
**Oillio**  
“植物のチカラ”

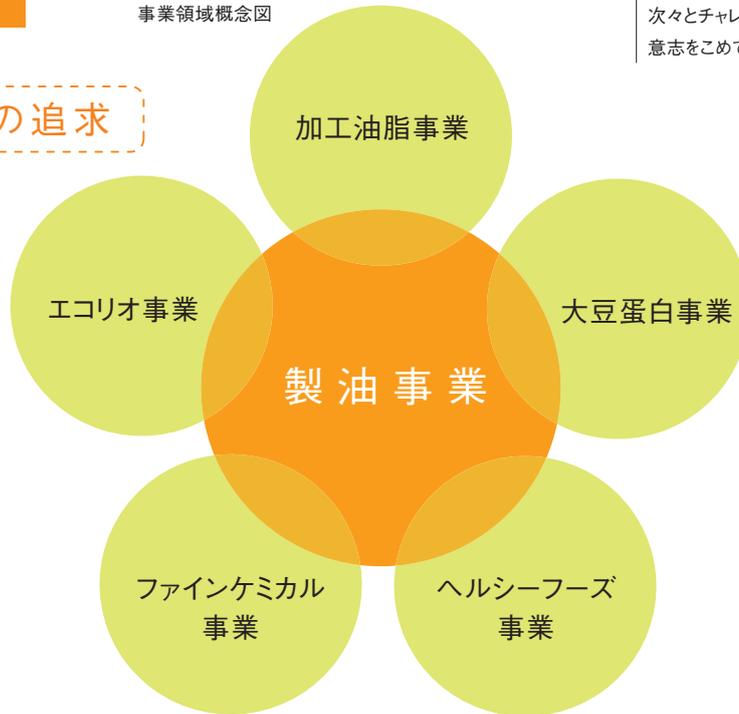
「Oil」にOilを反転した「Ilio」を組み合わせた「Oillio（オイリオ）」には、製油業の原点を大切にしながら、食用油の領域を超え、ヘルシーフーズ事業やファインケミカル事業などの新しい分野へ、次々とチャレンジしていくという意志をこめています。

## 日清オイリオグループの事業領域

事業領域概念図

コアコンセプト

おいしさ・健康・美の追求



## 製油事業

<主要な製品>



●家庭用食用油



●業務用食用油



●油粕・穀類



●工業用油脂・脂肪酸など

食用油や飼料用のミールなど油脂原料の持つ“植物のチカラ”を最大限に活かし、毎日の食生活を支えるとともに独自の技術による高付加価値商品を常に提案しています。日本だけでなく、中国を中心にアジア市場でも事業を展開しています。

加工油脂  
事業

<主要な製品>



●マーガリン・ショートニング など

マーガリン・ショートニングをはじめとするさまざまな用途に適した油脂を開発しています。日本国内だけではなく、マレーシアのISF社で製造された製品はアジアからヨーロッパまで広い地域でお客様から高い評価を得ています。

ヘルシー  
フーズ  
事業

<主要な製品>



●ドレッシング・マヨネーズ類

●栄養調整食品

●女性サポート食品

●病者用食品

●生活習慣病対応食品

●高齢者・介護対応商品

健康オイルを使用したドレッシングや卵を使っていないマヨネーズタイプ調味料などの加工食品のほかに、生活習慣病対応食品、栄養調整食品、高齢者・介護対応食品、病者用食品など「健康」をキーワードにさまざまな食品を提案しています。

ファイン  
ケミカル  
事業

<主要な製品>



●化粧品原料、食品・医薬品添加剤、中鎖脂肪酸油、化学品 など

化粧品や食品、医薬品、工業製品などさまざまな産業分野に機能性素材を提供しています。現在、生産拠点を海外にまで広げ、事業を展開しています。

大豆蛋白  
事業

<主要な製品>



●大豆たん白食品

●大豆食品

良質なたん白質として注目されている大豆たん白。当社が長年蓄積してきた技術を活かし、商品を提案しています。

エコリオ  
事業

●環境関連



環境マーケットをはじめとした非食用の分野で“植物のチカラ”を具現化することで新たな市場を開拓します。

その他  
事業

●物流、洗剤、情報関連、外食、販売促進、エンジニアリング、保険、不動産管理、水産、医薬品 など

# “植物のチカラ”を引き出す技術

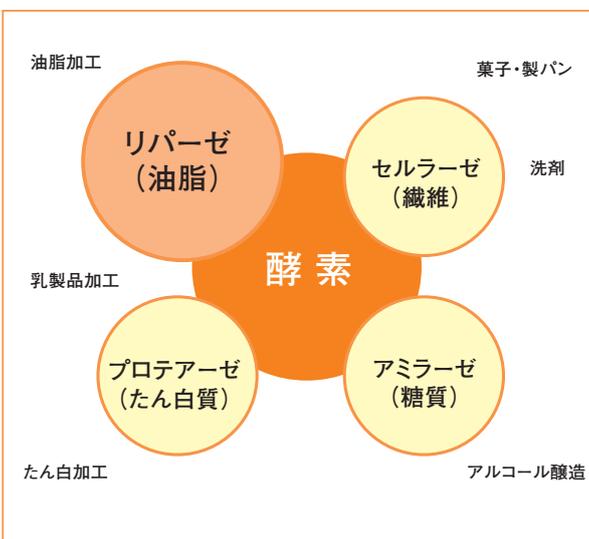
未来に向けた“植物のチカラ”を引き出す技術の一部をご紹介します。

## 酵素エステル交換技術

日清オイリオグループは、長年の油脂構造の研究により酵素リパーゼを活用したなたね油、パーム油のエステル交換の技術を確立しました。酵素エステル交換とは、酵素を使い特定の機能をもつ油脂（構造化油脂）をつくり出す技術です。従来のケミカル方式に比べて環境への負荷面で優位にあるものの製造コストが高いのが難点でしたが、技術

革新によりコストを下げることに成功しました。この技術を応用し商品化へ結びつけたのが、中鎖脂肪酸を関与成分とする「体に脂肪がつきにくい健康オイル『ヘルシーリセット』」です。今後は、この技術を活用し、ニーズに合ったさまざまな用途拡大への展開が期待されています。

### ■食生活を支える「酵素」の利用領域



### ■油脂の加工技術（ケミカル法と酵素法）

#### ケミカル法

- ・アルカリ金属を触媒に用いて短時間に油脂中の脂肪酸配置を交換する。
- ・反応物の着色や反応後の水洗や脱色工程による低歩留りなどのデメリットあり。
- ・排水への負荷が大きく、昨今の環境保護において課題がある。

#### 酵素法（リパーゼ）

- ・通常の方法では、酵素をシリカゲル等に吸着固定化させて油脂中の脂肪酸配置を交換する。
- ・固定化リパーゼが高価であり、反応装置も複雑。

酵素を固定化することなく、粉末のまま反応させる技術を独自開発



ヘルシーリセット

## 植物油を利用した土壌のバイオ浄化技術

植物油から製造した浄化剤を汚染土壌に注入することで、土中の微生物を活性化して汚染物質を無害化する技術の事業化を進めています。この技術は、地中に漏洩した場合に比重が重いため深く浸透し、地下水も汚染することで広範囲に汚染が拡大してしまうトリクロロエチレンなどの有機塩素系化合物の浄化対策に有効です。この製剤は植物油に食品添加物などを配合したもので、安全性が高く、浄化過程で生分解するので環境にも優しい特長があります。さらに浄化効果期間が長いので、施工コストを低く抑えることができます。土壌汚染対策に取り組む企業や、操業中の工場などでの採用が期待されます。2006年10月に開催された「2006土壌・地下水環境展」に出展したところ、食用油メーカーの新たな取り組みとして、テレビや新聞などのマスコミから多くの取材を受け、注目を集めました。



# 日清オイリオグループの海外展開

当社グループは、1988年中国に大連日清製油有限公司を設立して以来、アジア各地で事業を展開しています。

## 中国

大連日清製油は2006年に新工場への生産機能集約による効率化を図り、高まる中国での食用油需要に対応しました。上海日清油脂有限公司は、サラダ油のほか、キャノーラ油ヘルシーライト、べに花油、オリーブ油などを販売しています。生活レベルの向上が著しい上海地区、広州地区で日本と同等の品質の高級食用油を提供しています。今後は、販売エリアの拡大を図るとともに「ヘルシーリセット」の上市に向けて準備を進めています。また、ファインケミカル事業では、伸張著しい化粧品市場をターゲットに物流拠点、販売拠点の整備を進めています。



料理教室(上海)



ヘルシーライト      べに花油      オリーブ油



INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN.BHD

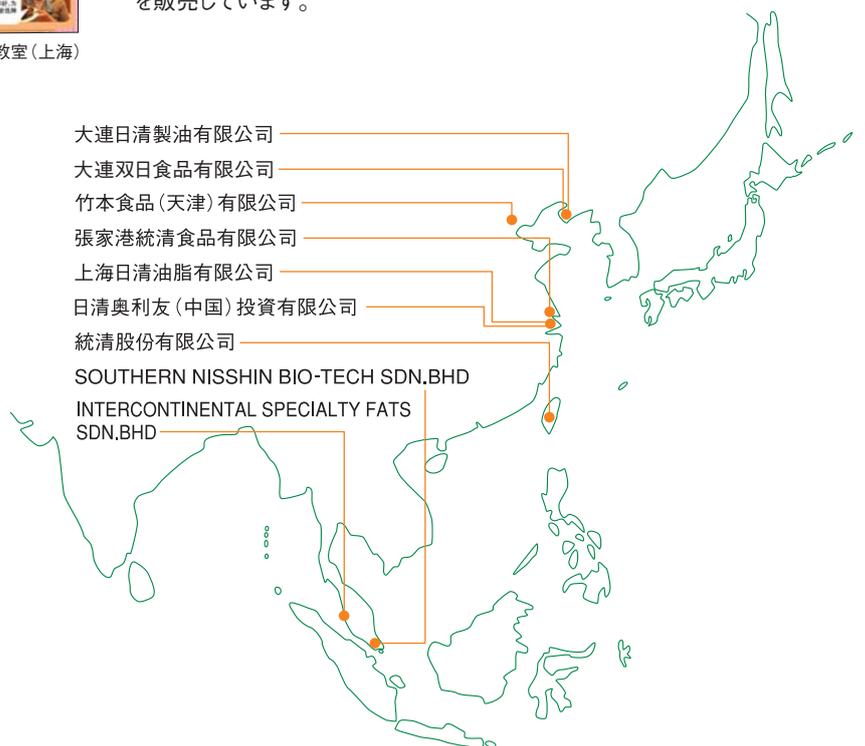
## 台湾

現地企業との合弁会社である統清股份有限公司でマーガリン・ショートニング・加工油脂の製造、販売を展開しています。食用油では、2005年から日本の特定保健用食品に相当する保健食品の認可を取得した台湾版ヘルシーリセット「統一綺麗健康油」を販売しています。



## マレーシア

世界的に需要が増え続けるパーム油への対応として、2つの製造・販売会社を展開しています。そのひとつのISF社 (INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN.BHD) では、独自の技術により高度に加工された油脂製品を東南アジアだけではなく、ヨーロッパまで販路を伸ばしています。



## ●海外グループ企業

### <投資会社>

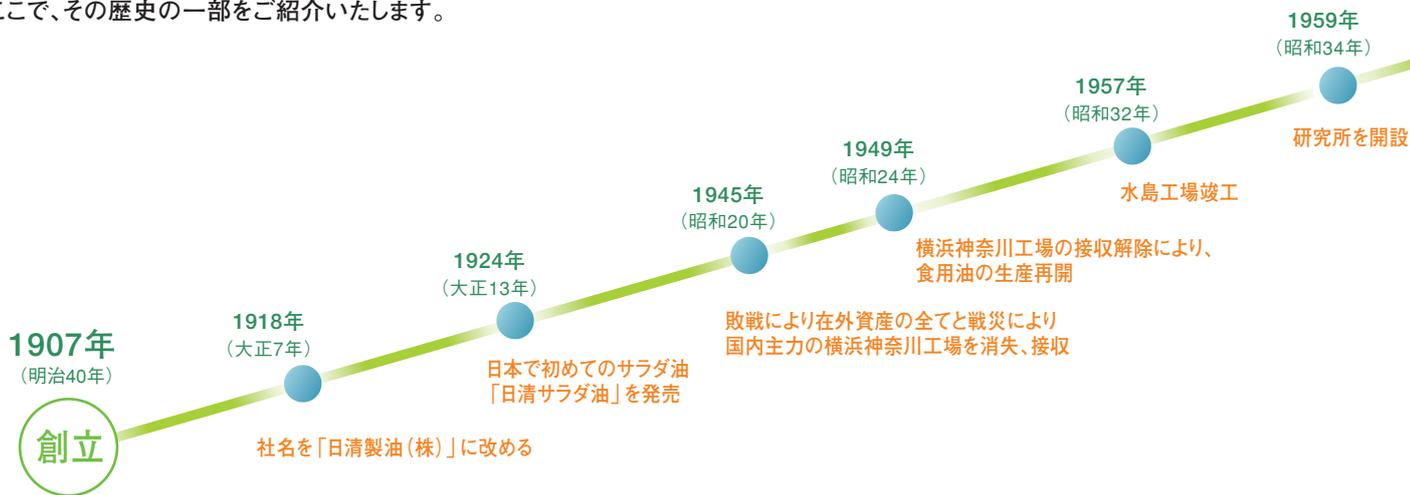
日清奧利友(中国)投資有限公司
中国における事業投資管理ならびに原材料調達および販売

### <事業会社>

大連日清製油有限公司	植物油脂・油粕の製造および販売
大連双日食品有限公司	食品大豆の選別事業
上海日清油脂有限公司	植物油の充填および販売
竹本食品(天津)有限公司	ゴマ油の製造および販売
張家港統清食品有限公司	マーガリン・ショートニング・加工油脂の製造および販売
統清股份有限公司	マーガリン・ショートニング・加工油脂の製造および販売
SOUTHERN NISSHIN BIO-TECH SDN. BHD	油脂加工製品の製造および販売
INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN. BHD	油脂加工製品の製造および販売

# 日清オイリオグループ これまでの100年のあゆみ

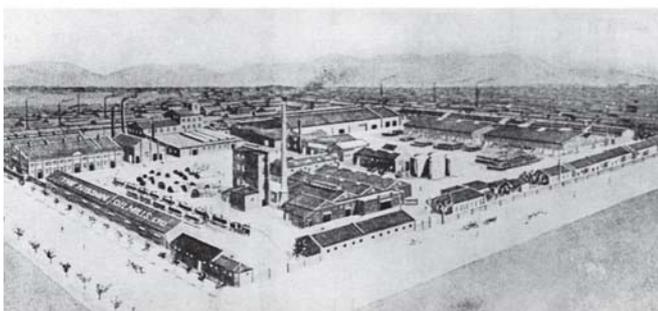
2007年、創立100周年を迎えた日清オイリオグループ。100年の歴史は、常に時代とお客様のニーズに応えながら、食卓を通して皆様の生活や健康をささえた時間の積み重ねでもありました。ここで、その歴史の一部をご紹介します。



## 1907年(明治40年)

### 農業生産への貢献を目指し 「日清豆粕製造株式会社」設立

当時、大豆は食用油よりも豆粕の製造が主体であり、豆粕は随一の有機質肥料として価値が認められていました。そんな時代を背景に、中国豆粕を扱っていた松下久治郎と「大倉組」の創始者・大倉喜八郎が出会い、豆粕を使った農業への貢献を目指して「日清豆粕製造株式会社」を設立。社名にある「日清」は、日露戦争後の日本の経済的大陸進出の象徴として、日本の「日」と清国(現在の中国)の「清」から名づけました。



1923年ごろの大連工場

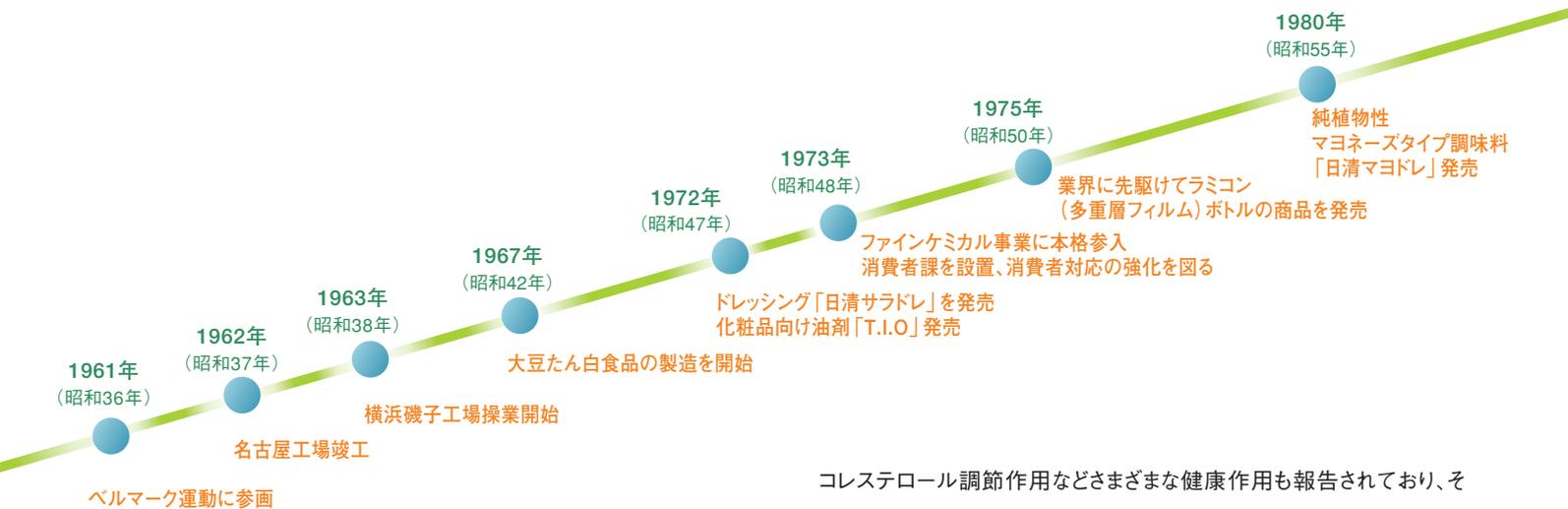
## 1924年(大正13年)

### 日本初の「サラダ油」発売 戦後、カロリー源として健康維持に貢献

他社に先駆けて大豆油の精製・サラダ油化に取り組んできた当社は、日本初のサラダ油を誕生させることに成功し、1924年「日清サラダ油」を発売しました。当時の値段は600g入りのビンで85銭(米一升が約45銭)。食生活の洋風化にともない、「日清サラダ油」は徐々に浸透していき、サラダ油を使った料理が日本の食卓を豊かに彩りました。第二次世界大戦により、民生用の食用油の生産が激減する、横浜神奈川工場の敷地が米軍に接收される、在外資産をすべて失うなど大打撃を被りましたが、戦後に横浜神奈川工場の接收解除が認められると、「日清サラダ油」「日清天ぷら油」など食用油の製造・販売を再開。高カロリーである油は、食糧難の時代に貴重なエネルギー源として国民の栄養状態改善に大きな役割を果たし、日本の復興を食の面から支えました。



当時の製品



## 1959年 (昭和34年)

### 良い製品・技術開発のため 「日清製油研究所」を発足

「お客様のニーズにそった、より良い商品の開発を行わなくては」。そのような強い想いで、1959年「日清製油研究所」を横浜神奈川工場の敷地内に開設しました。研究所では、油脂、油粕、副産物の高度利用、新規事業の開拓、品質と技術の改善などに力を注ぎ、その後の各種食品やファインケミカルなど新分野へ挑戦する原動力となりました。1995年には規模を拡大し横須賀へ移転。中長期的な研究開発計画を策定し、各部門と連携しながら、良い製品・技術の開発のために努めています。



1959年の研究所



現在の中央研究所

## 1967年 (昭和42年)

### 健康の強い味方 「大豆たん白食品」を生み出す

不足傾向にあったたん白源を補うため、「畑の肉」と言われる大豆のたん白質に着目。1967年に大豆たん白を繊維状にした「ソイミー」を生産し、「大豆たん白食品」というまったく新しい食品を世に送り出しました。「ソイミー」によって「大豆たん白食品」は良質なたん白質が手軽にとれる食品として大きな注目を集め、今では多くの製品が販売されています。



大豆たん白を使用した食品群

コレステロール調節作用などさまざまな健康作用も報告されており、その重要性はますます高まる一方です。また、人口増加が著しいアジアにおいても貴重な食品として注目されており、2007年度からスタートした日清オイリオグループの経営基本構想“GROWTH 10”でも大豆蛋白事業をコア育成事業として掲げています。

## 1972年 (昭和47年)

### 「食」や「健康」だけでなく 「美」の分野にも挑戦

1972年、大手化粧品会社向けにイソオクチル酸のグリセリンエステル「T.I.O」を発売。「食」や「健康」という分野にとどまらず、「美」という新しい分野へのチャレンジを始めました。その後も、植物資源を活用した独自の技術で、さまざまな産業分野へ原料などを提案。化粧品分野の水溶性高分子や紫外線吸収剤等、情報関連産業分野の特殊エステルなど、食品分野では中鎖脂肪酸油、トコフェロールやレシチンなど提案内容は幅広く、皆様の暮らしの身近な場所で「健康的で美しい生活」のお手伝いをしています。

## 1980年 (昭和55年)

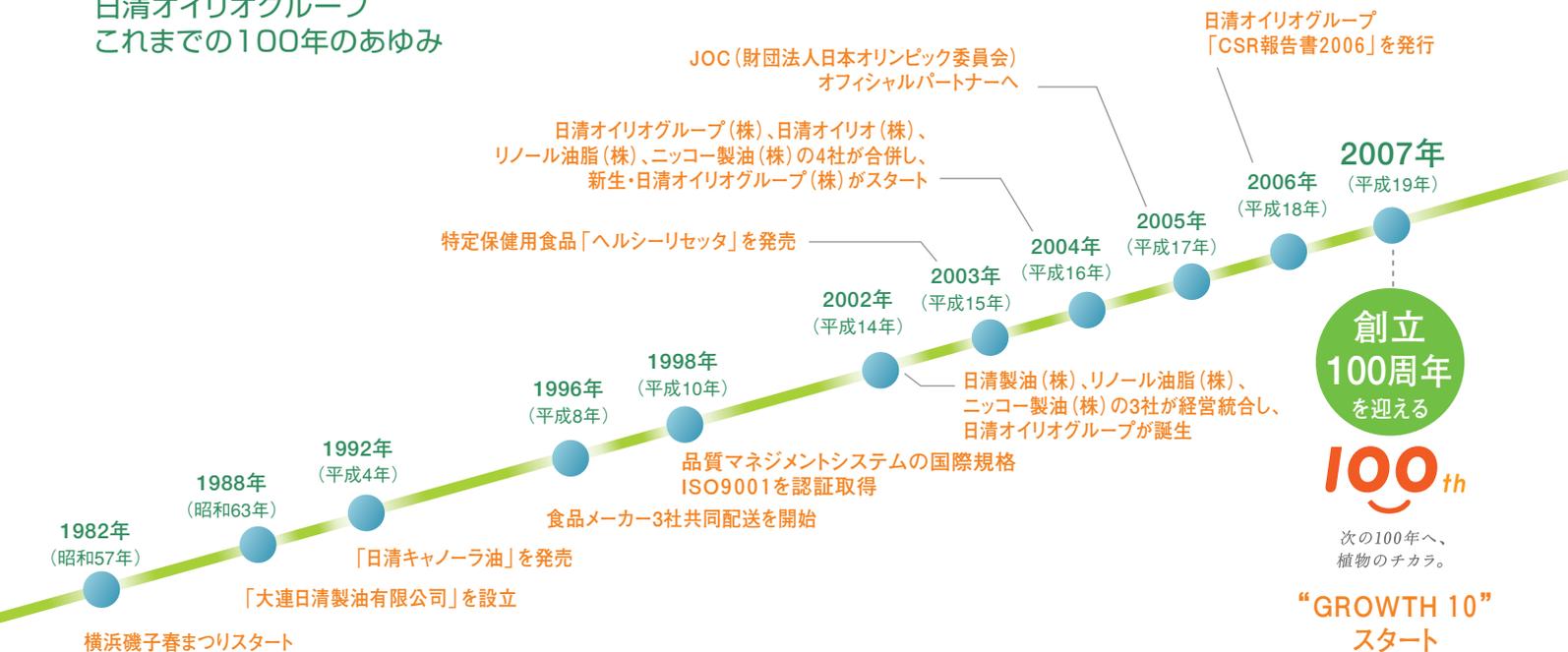
### 健康志向マヨネーズの先駆け 「日清マヨドレ」発売

食の欧米化にともない健康を気にし始めた消費者のニーズに応え、卵を使用しない純植物性のマヨネーズ風調味料「日清マヨドレ」を発売。コレステロールゼロ・低カロリーであるマヨドレは、健康志向マヨネーズの先駆けとして「おいしくて体によい」という価値感を食卓に提案し、大旋風を巻き起こしました。1972年に発売した「サラダレ」以来、私たちは加工食品の製造に一環して変わらぬ力を注いでおり、現在では特定保健用食品である「マリンペプチド」など生活習慣病対応食品や病者用食品、高齢者・介護対応商品にも取り組み、食品を通して「健康な生活」をご提案しています。



新発売当時のマヨドレ

日清オイリオグループ  
これまでの100年のあゆみ



1988年 (昭和63年)

日本で培った技術を世界へ  
「大連日清製油有限公司」設立

1988年、中国・大連に設立した「大連日清製油有限公司」を皮切りに、油脂の製造工場、食品大豆の選別工場など次々と中国に新会社を立ち上げ、2003年には中国国内の事業を統括する「日清奥利友(中国)投資有限公司」を設立しました。その後も、2005年にマレーシアの「INTERCONTINENTAL SPECIALTY FATS SDN. BHD」に資本参加するなど、アジア市場での事業展開を強化。これまでに培った技術を日本国内にとどめることなく海外でも広く事業展開しています。



大連新工場

2003年 (平成15年)

中鎖脂肪酸の可能性を研究  
「ヘルシーリセッタ」発売

私たちは、脂肪酸のひとつ「中鎖脂肪酸」の存在に早くから注目し、医療用原料の発売をスタートに、食品香料、乳製品、化粧品向けの原料開発を進めてきました。そして2003年、「エネルギーになりやすい＝脂肪がつきにくい」という中鎖脂肪酸の利点を最大限に活かした食用油「ヘルシーリセッタ」を発売。独自の技術により、食品としてのおいしさや調理適性、健康機能を併せもつことに成功したこの製品は、発売以来高いご支持をいただいています。その健康効果は厚生労働省からも認められ、「特定保健用食品」の許可を得ました。現在も、さらなる可能性を追い求めて研究を重ねており、高齢者の栄養補給やアスリートの疲労回復・持久力の向上など、中鎖脂肪酸がもつ大きな力を皆様の健康に役立てるお手伝いをしています。2004年には、特定保健用食品の健康オイル第2弾としてコレステロールを下げる「ヘルシーコレステ」を発売しました。



「ヘルシーリセッタ」「ヘルシーコレステ」

# 10ヵ年経営基本構想 “GROWTH 10 (グロース・テン)”

## “GROWTH 10”の目指すべき姿

創立100周年を迎えた日清オイリオグループが「次の100年」の創業期を確実に切り開くための指針として、2007年度から2016年度までの10ヵ年経営基本構想“GROWTH 10(グロース・テン)”を策定いたしました。“GROWTH”はまさに“成長”を意味しており、現状に満足せず、常に成長し続けるという強い意志をもって、目指すべき姿を実現していきます。

すべてのステークホルダーにとって存在価値のある  
企業グループとして社会の発展に貢献

目指すべき姿 = “植物のチカラ”で新たな価値を創造し続ける  
国際的な企業グループ

“植物のチカラ”  
を独創的な  
技術で具現化

海外売上高比率  
3割以上の  
国際企業への  
飛躍

CSR活動による  
社会・環境への  
貢献

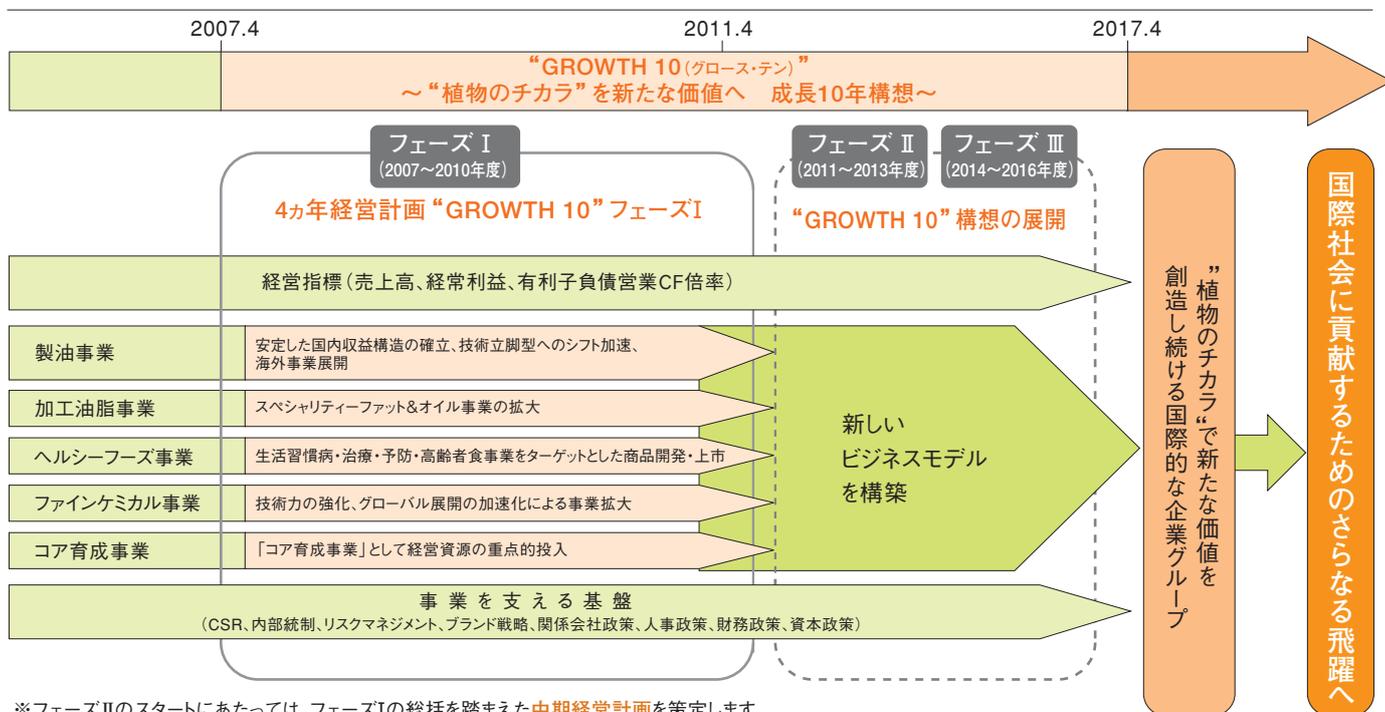
あらゆる場での  
絶え間ない  
革新

高い  
収益構造の  
獲得

## “GROWTH 10”の展開について

“GROWTH 10”では、10年間を3つのフェーズに分けて、それぞれを中期経営計画とします。それぞれの中期経営計画では、“GROWTH 10”で示された考え方に基づいて、数値目標、その達成のための戦略、行動計画などを策定します。2007年度から2010年度を4ヵ年経営計画“GROWTH 10”フェーズIと位置づけてスタートしました。

### ●GROWTH 10の展開イメージ●



### “GROWTH 10”フェーズI

2010年度達成目標  
(日清オイリオグループ連結)

売上高	3,000億円以上
経常利益	150億円以上
ROA (経常利益ベース)	7.0%以上
ROE (株主資本ベース)	7.0%以上
有利子負債営業CF倍率	2.2倍以下

# 次の100年に向けて

これまでの100年から次の100年へ、私たちは“植物のチカラ”を活かして人々の幸福な生活に貢献していきます。



日清オイリオグループ(株)  
東京支店FSグループ  
白石 鉄

**私にとっての“植物のチカラ”とは、  
「あらゆる植物の持つ可能性を引き出し、人々の生活に役立たせること」**

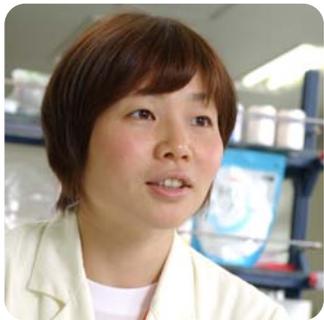
外食や中食といったユーザー様と利用者であるお客様に、価値が認められる商品を提供するための取り組みを行っています。安心、安全はもちろんのこと、おいしくて健康的な商品が求められるなか、当社独自の商品、技術、ノウハウをユーザー様の商品づくりに活かせるよう、さまざまな情報発信や商品提案をしつづけています。こうした提案が受け入れられ、新しい商品として市場で消費者から支持されると、ユーザー様と喜びを分かちあうことができ、嬉しさも倍増します。こうした営業活動を通じて、「いつも必要とされる」存在になりたいですね。

**私にとっての“植物のチカラ”とは、  
「食べることを通じて自然の恵みへ感謝すること」**

中国は今、急速な変化と発展を遂げており、その巨大なマーケットを目指して世界の名だたる企業が参加する、さながらオリンピックの舞台と化しています。なかでもここ上海は、強豪がひしめく一番の激戦区となっています。この大舞台で一人でも多くの中国の人々に私たちが持つ技術に裏付けられた商品を知っていただき、“植物のチカラ”による「おいしさ・健康・美」のある生活を提供していきたいと考えています。また、食べることを通じて、植物資源など自然の恵みへ感謝のメッセージを送ることができればと思います。



上海日清油脂有限公司  
花井 卓磨



日清オイリオグループ(株)  
中央研究所ヘルシーフーズ開発分野  
松居 夏代

**私にとっての“植物のチカラ”とは、  
「安全、安心、おいしさと健やかな生活を提供すること」**

高齢になると、身体の機能や咀嚼・嚥下機能が衰えて、今まで普通に食べていた食品が食べられなくなったりします。口から食べる楽しみが無くなってしまうと、体力だけでなく、気力も弱くなってしまふ方が多いようです。誰もが安全で安心なのはもちろんのこと、安らぎのある豊かな食生活をおくることができるようにお役に立ちたいと思います。そのために、実際に介護施設や病院へ行って、介護やリハビリに携わっている先生方や患者さんの声を聞き、より良い商品の開発に活かしています。



日清オイリオグループ(株)  
エコリオ事業開発室  
篠原 剛

**私にとっての“植物のチカラ”とは、  
「地球環境の保護維持のために、植物資源を最大限に活用すること」**

私たちは、持続可能な社会の実現に向けて「エコリオ事業」を推進していきます。エコリオとは“エコロジー”にかける“オイリオ”の想いを込めた言葉です。この事業の推進を通じて、“植物のチカラ”を活用し、地球環境の保護、維持に貢献していきたいと考えています。食糧として使われていない植物を、バイオマス燃料に活用する技術や、植物の特徴を活かした新しい石油代替製品の開発を進めています。次世代にもこの美しい地球を残していきたい、そう考えて仕事に臨んでいます。

**私にとっての“植物のチカラ”とは、  
「生命力にあふれていて、大きく成長して人々の役に立つこと」**

生活科学研究室は、1994年以来食生活を中心とした社会全般の動向を調査しています。社会環境や生活者の価値観の変化、それらに起因する生活習慣の動向などについて分析し、レポートとして発信しています。これまでは調査対象を日本国内としていましたが、今後は当社グループの海外展開も踏まえ、世界各国の生活者をも対象に調査を行いたいと考えています。社内外に関心をもってもらえるような発見を提供し、その国・地域のニーズに合った、新たな商品・サービス、ライフスタイルが生まれたらいいなと思います。



日清オイリオグループ(株)  
生活科学研究室  
小林 愛子

**私にとっての“植物のチカラ”とは、  
「芽から育てて、枝を茂らせ、大きな果実を実らせること。  
そしてまた次の世代へつなげること」**

定年退職後も工場内の機械、設備のメンテナンスの仕事を続けています。この仕事は、何よりも、経験に培われた知識と勤が必要で、機械の声を聴き分けられる一人前になるには、10年は必要でしょうか。私が若い頃は、先輩の仕事を盗んで覚えました。今は、一方通行ではなく、若い人の意見や考え方を聞きながら「技術の伝承」をしています。話をするなかで、ときには今まで気がつかなかった新しい発見もあります。若い人が成長する姿を見るのは、わが子の成長を見守るようで嬉しいですね。次世代が大いに活躍する、それが今の私にとってのささやかな夢です。



日清プラントエンジニアリング(株)  
関口 光彦

# 日清オイリオグループのCSR

あらゆるステークホルダーからの期待に応えること。それが私たちのCSRです。

私たち日清オイリオグループが、その経営理念を実現する上では、私たちを取り巻くあらゆるステークホルダーの皆様との密接な関係を構築し、さまざまな責任を全うすることによって、その多様なニーズにお応えしていかなければなりません。

すなわち、経営理念の実現を通じてステークホルダーの皆様との期待と信頼にお応えすることこそ、私たちにとってのCSRなのです。

## 日清オイリオグループの経営理念

1. 企業価値の追求と、その最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献
2. 「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業への飽くなき探求
3. 社会の一員としての責任ある行動の徹底

私たちは、顧客、株主、従業員、社会・環境にとって存在価値のある企業グループとして、人々の幸せを実現するとともに、社会や経済の発展に貢献し続けていくことを使命と考えています。そのために、これまで永年培ってきた植物油脂をはじめとする食に関わる技術をベースに

「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとして、新たな価値の創造と社会への提供を通じて 絶えず発展・進化していく企業グループであり続けます。また、地球環境問題への主体的な取り組み、企業倫理・法令遵守等を通じて、社会の一員としての責任を全うしていきます。

## 日清オイリオグループのコアプロミス

21世紀を迎える日清オイリオグループは、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)を提案・創造する企業として力強いスタートを切ります。そのために私たちは、無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術に

よって、あなたにとって、あったらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続けることを約束します。(2002年制定)

## CSRに対する取り組みの基本方針と推進体制

日清オイリオグループは、経営理念の実現によってあらゆるステークホルダーの期待に応えることがCSR活動そのものであるとの考えに立って、2005年6月、以下の通りCSRに対する取り組みの基本方針を定め、「顧客、株主、従業員、社会・環境」を主たるステークホルダーとして明確化いたしました。

### 1) 意義・目的

- CSRとは、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、「法的な責任を果たすこと」はもちろん、安心できる・安全な商品・サービスの安定的な提供、環境への取り組み、社会貢献、情報公開など、「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」である。
- 日清オイリオグループにとって、その経営理念である「企業価値の追求とその最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献」、「『おいしさ・健康・美』の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある

事業への飽くなき探求」、「社会の一員としての責任ある行動の徹底」の実現そのものが、CSRに対する取り組みに直結するものである。

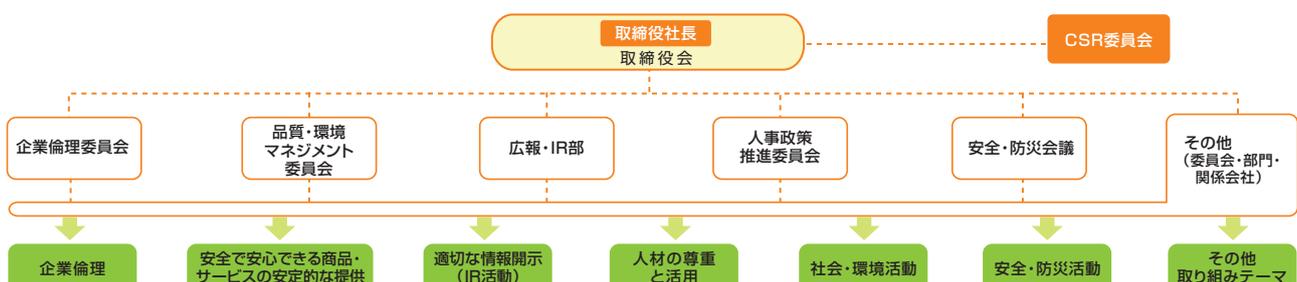
- 日清オイリオグループは、CSRに対する主体的な取り組みによって、あらゆるステークホルダーからの信頼・共感の維持・向上を図り、企業の持続的発展、企業価値の向上を目指す。

### 2) 行動指針

- 「日清オイリオグループ行動規範」をCSRに対する取り組みの行動指針として位置づけ、日清オイリオグループを構成する全員の主体的な取り組みを推進する。

### 3) 推進体制

- この基本方針を立案・統括管理しているのが、2005年7月、取締役会に直結する会議体として設置された「CSR委員会」です。



## 私たちのCSRへの取り組みと6つのテーマ

日清オイリオグループは、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、「顧客、株主、従業員、社会・環境」の4つの主たるステークホルダーの期待にお応えするために、6つの重点取り組みテーマを選定し、取り組みの概念図を明らかにしています。

### 企業倫理

公私を問わず、社会の一員として、法令及び社会倫理を遵守した活動を徹底し、CSRを推進する企業体質を維持・強化します。

### 安全で安心できる商品・サービスの安定的な提供

商品・サービスの安全性を最優先とし、そのための供給・管理体制の徹底と更なる改善に努めることにより、お客様の満足と信頼を獲得します。

### 適切な情報開示(IR活動)

日清オイリオグループの活動・組織・財務状況・業績などの開示のみならず、将来の成長戦略やCSRに対する取り組み等の経営情報を常にタイムリーに開示することにより、経営の透明性を高めます。

### 人材の尊重と活用

従業員一人ひとりの個性・適性を尊重し、常に公正に評価・処遇し、それぞれの能力が十分に発揮できるよう努めることにより、活力ある企業体質を構築します。

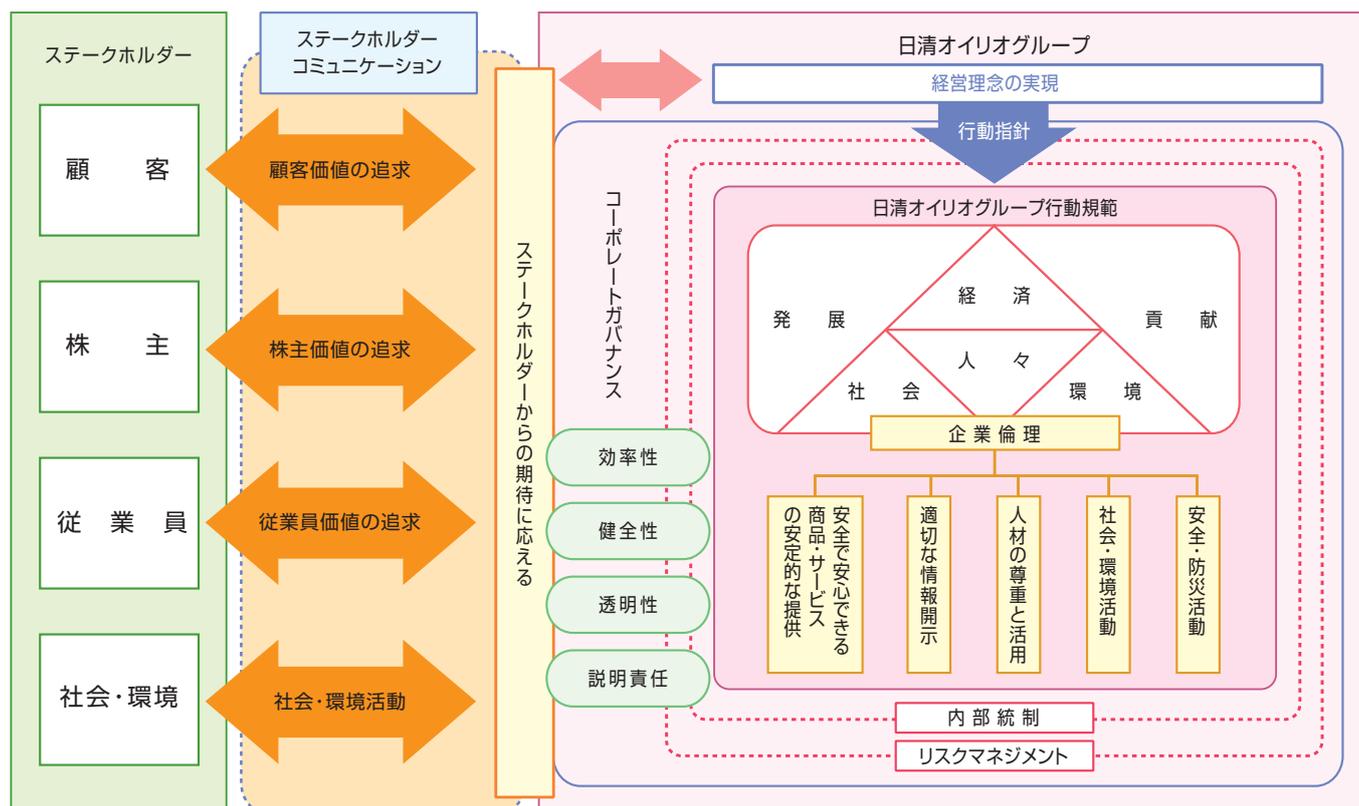
### 社会・環境活動

地域社会の活動、災害時の救援・協力活動など、良き企業市民として広く社会に資する活動に努めるとともに、資源循環型社会の構築を目指した環境負荷低減活動の実践と積極的な情報開示を推進します。

### 安全・防災活動

常に安全衛生の維持・向上に努め、安全で働きやすい職場環境の整備に努めることにより、従業員の心と体の健康を維持するとともに、安定操業の確保や地域社会の安全・安心の強化など、企業としての社会的信用の維持・向上を推進します。

### ●CSRに対する取り組みの概念図●



# ステークホルダーの皆様からの期待と私たちの活動方針

## お客様と ともに P.24

- 消費者視点、おいしい食品
  - ・ユニバーサルデザインフード
- 安全・安心・安定供給
  - ・原料へのこだわり、トレーサビリティ
- 商品・健康情報提供
  - ・食物アレルギー対策

「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。お客様の声を絶えずお聞きして、“植物のチカラ”を、独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。

## 日清オイリオ

企業倫理

安全で安心できる商品・サービスの安定的な提供

適切な情報開示 (IR活動)

## 取引先様 とともに P.29

- 公平公正な取引と相互の収益確保
- 信頼できるパートナーとしての商品・市場の共同開発
  - ・コラボレーション

フェアネス(公平・公正)に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、共に成長していきます。

## 社会の ために P.36

- ボランティア活動への支援
- 地域社会とのコミュニケーション
- 健康増進に関する取り組み
  - ・食育、スポーツ振興
  - ・寄付活動、イベント

良き企業市民として地域社会に貢献するとともに、国際社会の一員としても良好な企業活動や積極的なコミュニケーションを図り、社会とともに発展していくよう努めます。

株主・  
投資家の皆様と  
ともに  
P.30

健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主様との双方向コミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上、適切な利益還元に努めます。また、広く投資家の皆様に向けて、適切な情報開示を行います。

- 健全な成長、安定した企業業績
- コーポレートガバナンスの確立と透明性の高い経営
- 経営情報の適切な開示
  - ・株主・投資家の皆様への説明を拡充
- 株主への適切な利益還元
  - ・適正な株価、配当、株主優待

従業員と  
ともに  
P.32

- 高い企業倫理に基づいた経営
- 働きがいのある自己実現ができる職場
- 公正な評価と納得性の高い労働条件
- 労働安全衛生への取り組みによる職場環境の充実

時代に合った働きやすい環境を整え、従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした安全で衛生的な職場を実現します。

人材の尊重と活用

社会・環境活動

安全・防災活動

環境の  
ために  
P.38

常に未来に向けた技術で、“植物のチカラ”を引き出し、原料・資材の調達から、生産、納品、ご使用、廃棄にいたるまで地球環境に配慮した商品・サービスの開発、ご提供を通じて、資源循環型社会の構築を目指します。

- 資源循環型社会への取り組み
  - ・ゼロエミッション
- 地球環境に配慮した商品・サービスの開発提供
- 全ての事業活動における地球温暖化防止への取り組み

# CSRを支える基盤

## コーポレートガバナンス

社会からより一層の期待と信頼をいただく  
誠実な企業を目指し、私たちは新しい取り組みを推進しています。

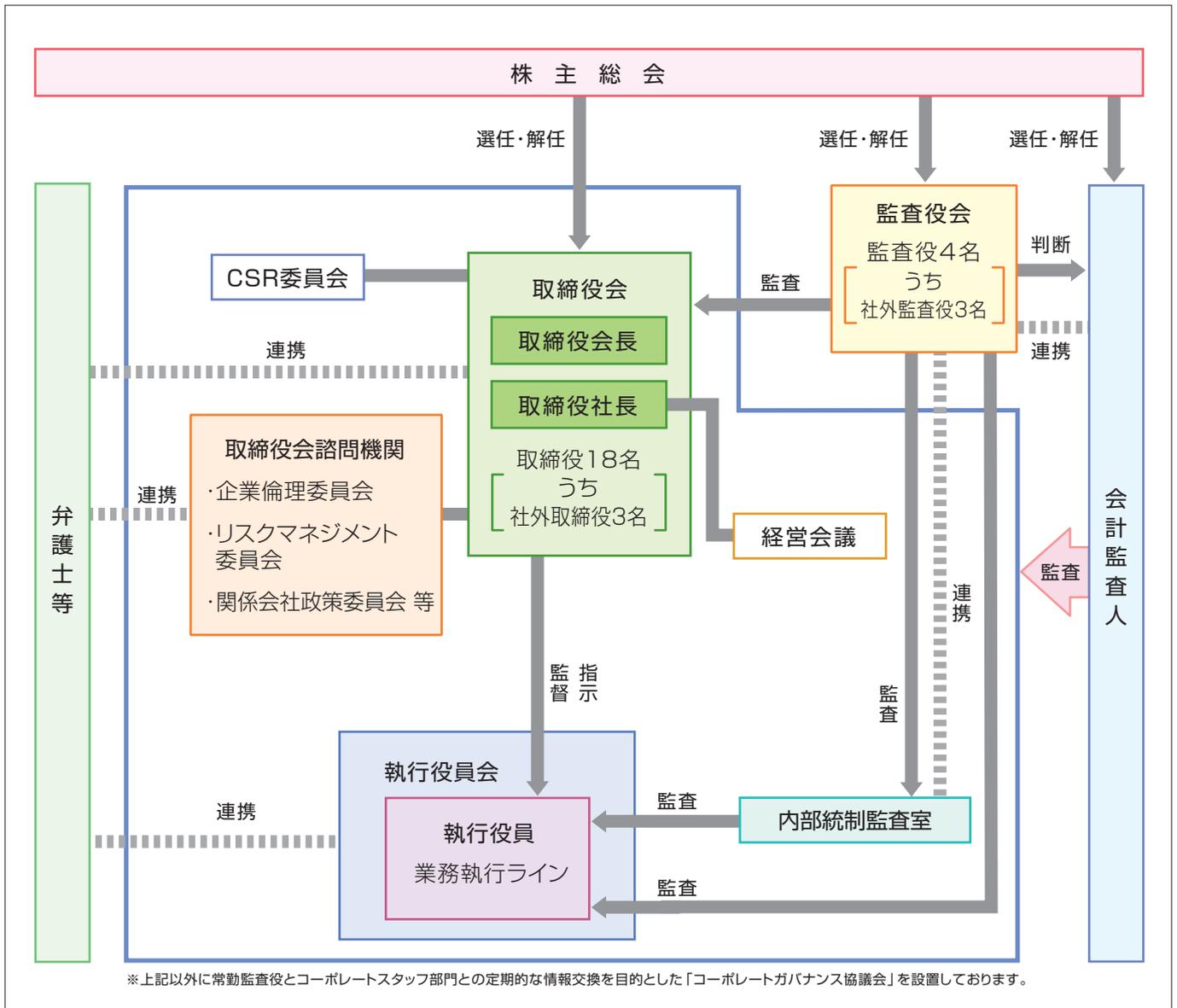
あらゆるステークホルダーの期待にお応えし、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)をご提案・創造すること。それが私たちの願いであり責務です。そのためには、誠実で透明性が高く、かつ有効な企業統治体制が必要になります。「効率性」、「健全性」、「透明性」、「説明責任」など、コーポレートガバナンスの目的を十分に果たすことによって、私たちはより一層信頼される企業へとステップアップしてまいります。

### 透明性の高い経営を目指した統治体制

日清オイリオグループは、お客様に健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)をご提案・創造する企業にふさわしい、健全で透明性の高い経営を目指し、以下のコーポレートガバナンス体制を整備しています。

また、執行役員制度を導入しており、執行役員は取締役会から業務執行権を委譲され、取締役会の方針に則り、担当取締役の了解のもとで業務執行に携わっております。

●コーポレートガバナンス体制図●



## 2006年度の主な取り組み

### ●内部統制システムの構築

日清オイリオグループは、内部統制システムの構築を金融商品取引法への対応とともに、企業の社会的責任（CSR）を果たすための重要なファクターの1つとして位置づけ、以下の基本方針・全体スケジュールに基づいた内部統制システムの構築を進めてきました。

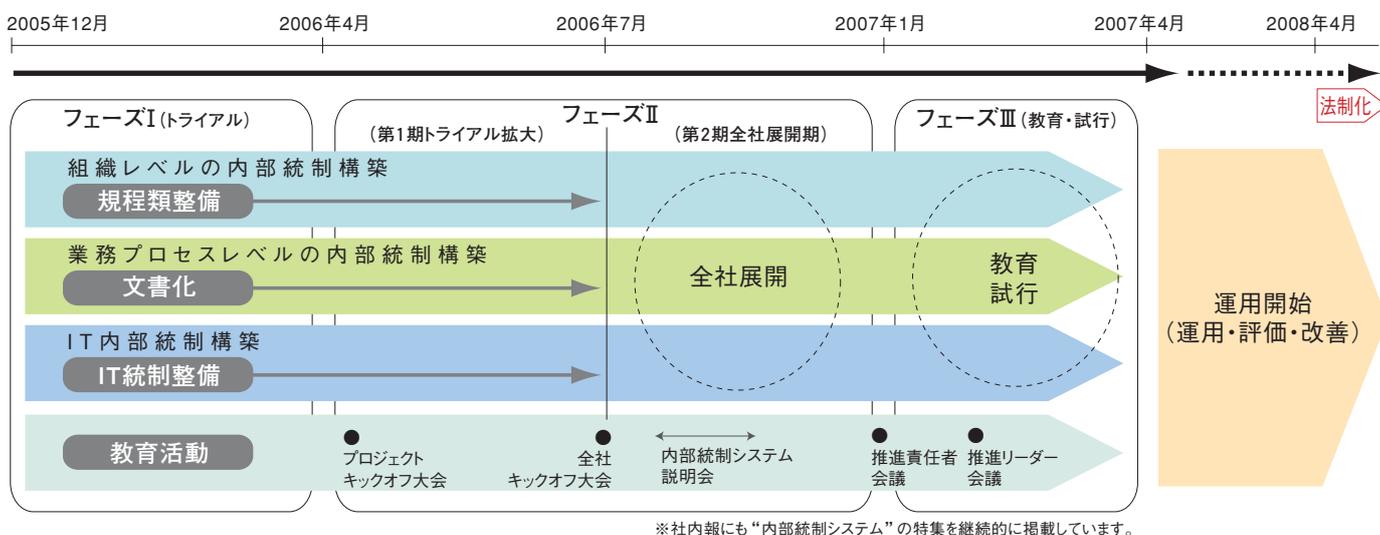
2007年4月より内部統制システムの運用を開始し、2008年4月からの内部統制評価の法制化対応（「内部統制報告書」の提出）に向けた準備を進めています。

#### <基本方針>

・内部統制システムの構築は、法制化対応であることはもちろんのこと、内部統制システムの充実により、財務報告の信頼性を高めることを主眼とし、業務の有効性および効率性、透明性、コンプライアンス、リスクマネジメント、グループガバナンスなど、企業価値そのものの向上に結びつけるものとする。

・内部統制システムは、「当社グループを構成する全ての者の業務活動に組み込まれ、一人ひとりが理解・遂行しなければならないシステムであり、一人ひとりが内部統制の理解を深め、日々の業務活動において実践することによって初めて有効に機能するシステム」である。このことを十分に認識し、従業員一人ひとりが主体的に参加し、より効果的かつ有効な内部統制を構築・運用することを目指す。

#### <内部統制システム構築に向けた全体スケジュール>



### ●内部統制システムにおけるIT統制

日清オイリオグループはさまざまな業務を効率的に遂行するために、多くの業務処理にITを最大限活用しています。ITを活用することで、日常業務における情報処理の効率を上げるだけでなく、内部統制における業務処理統制にも非常に有効な手段として機能することが可能となっています。同時にITそのものに対する統制については、内部統制の

運用開始に備えて各種規程類の整備を進め具体的な運用手続きを行うとともに、新たな情報セキュリティ対策を講じて利用者への啓発を行いました。業務処理に利用される情報システムが適切であり、正しく利用され、その利用状況をモニタリングする仕組みを実行することで、常にIT統制が有効に機能する体制を実現していきます。

### ●情報システム利用に際しての誓約書

日清オイリオグループの情報システムを利用するすべての利用者に対して、情報セキュリティの観点から情報システムの利用に関するさまざま

なルール遵守の「誓約書」の提出を求め、情報システムに関する不正利用・情報漏えい事故発生への抑止に努めています。

# CSRを支える基盤

## コンプライアンス

全役員、全従業員が「行動規範」を遵守、実践する決意をもって行動しています。

企業の倫理体制に対してかつてなく厳しい目が向けられている今日、私たちは「日清オイリオグループ行動規範」を経営理念実現のための行動指針とするとともに、CSR活動の行動指針としても位置づけています。

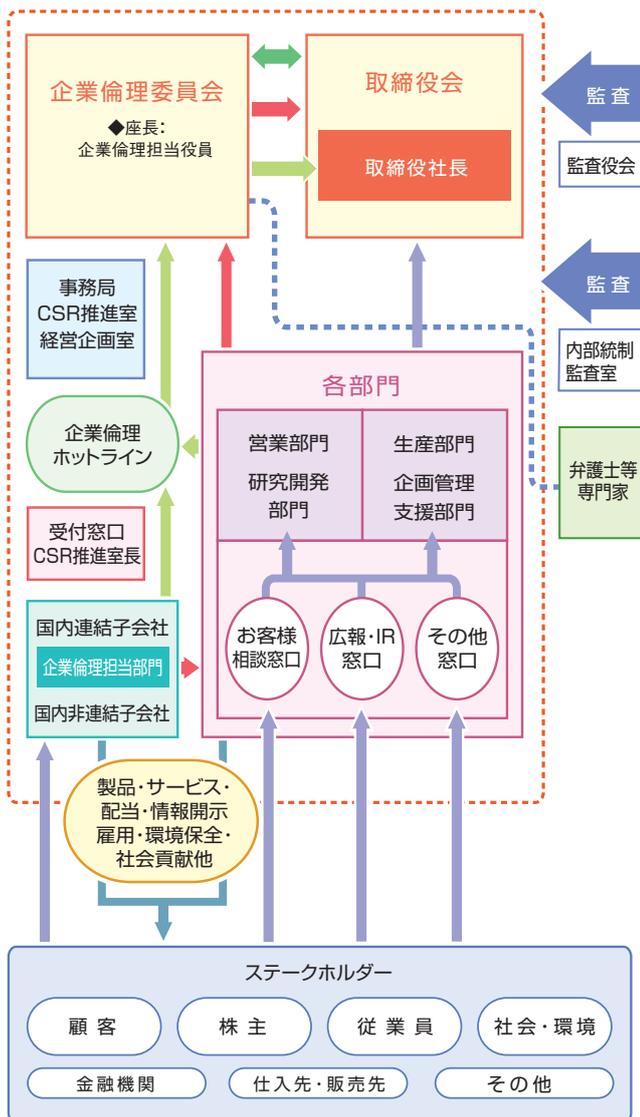
日清オイリオグループの全役員、全従業員は、この行動規範の目的を十分理解し、国際的な企業グループにふさわしい責任ある行動を貫く決意をしています。

### 企業倫理体制構築の歩み

日清オイリオグループは、2002年10月に「日清オイリオグループ行動規範」を制定しています。2003年には、全社的な企業倫理体制の構築・強化を目的とする「企業倫理委員会」を設置、各部門との緊密な連携のもと、「日清オイリオグループ行動規範」を周知徹底、実践を推進してきました。

#### ●日清オイリオグループ企業倫理体制概念図●

企業倫理報告 ▶ 各ステークホルダーからの声 ▶ ホットライン報告 ▶ 諮問・答申 ◀▶



### 2006年度の主な取り組み

日清オイリオグループは、企業倫理委員会を中心に、以下のように、コンプライアンス徹底のためのより主体的な取り組みを行っています。

#### ●行動規範の改訂、周知・徹底

企業の社会的責任に対するより積極的な取り組みを明文化することを主眼に、2006年4月1日付で改訂した「日清オイリオグループ行動規範」を手帳サイズの冊子として全従業員に配布しました。なお、「日清オイリオグループ行動規範」全文をホームページにて公開しています。



<http://www.nisshin-oillio.com/company/>

#### ●コンプライアンスプログラムの実施

2006年度のコンプライアンスプログラムとして、営業部門を対象に独占禁止法に関する説明・教育を実施しました。また、個人情報保護などの営業部門にかかわるコンプライアンス状況の監査を実施しました。

#### ●企業倫理講演会の開催

日清オイリオグループ(株)および子会社における当社グループのCSRと企業倫理に対する取り組みの理解と意識の啓発を図ることを目的とした「企業倫理講演会」を開催しました。

#### ●企業倫理ホットライン

企業倫理・法令遵守に関する問題提起(内部不正情報)や疑問・相談、また「日清オイリオグループ行動規範」に対する問題提起や意見を受け付ける「日清オイリオグループ企業倫理ホットライン」を設置しています。

## リスクマネジメント

あらゆるリスクに備え、リスクマネジメントシステムを構築・運用しています。

あらゆるステークホルダーの期待にお応えするためには、私たちの事業を取り巻くさまざまなリスクを特定し、いかなる事態においても事業を中断させない体制と対策を整備しておく必要があります。私たちは、取締役会に直結する意思決定機関を中軸として、社会的責任を積極的に果たすための体制を整えています。

### リスクマネジメントの方針と体制

日清オイリオグループは、経営理念の実現に向けた企業活動におけるさまざまなリスクを把握・管理するために、以下のようにリスクマネジメントの目的と基本方針を定めています。

#### ● 目的

日清オイリオグループは、リスクマネジメントに対する主体的な取り組みにより、企業として安定した収益を上げるのみならず、顧客、株主、従業員、社会・環境をはじめとするステークホルダーに対する企業としての社会的責任（CSR）を果たすとともに、さらなる企業価値の向上、持続的な発展を目指す。

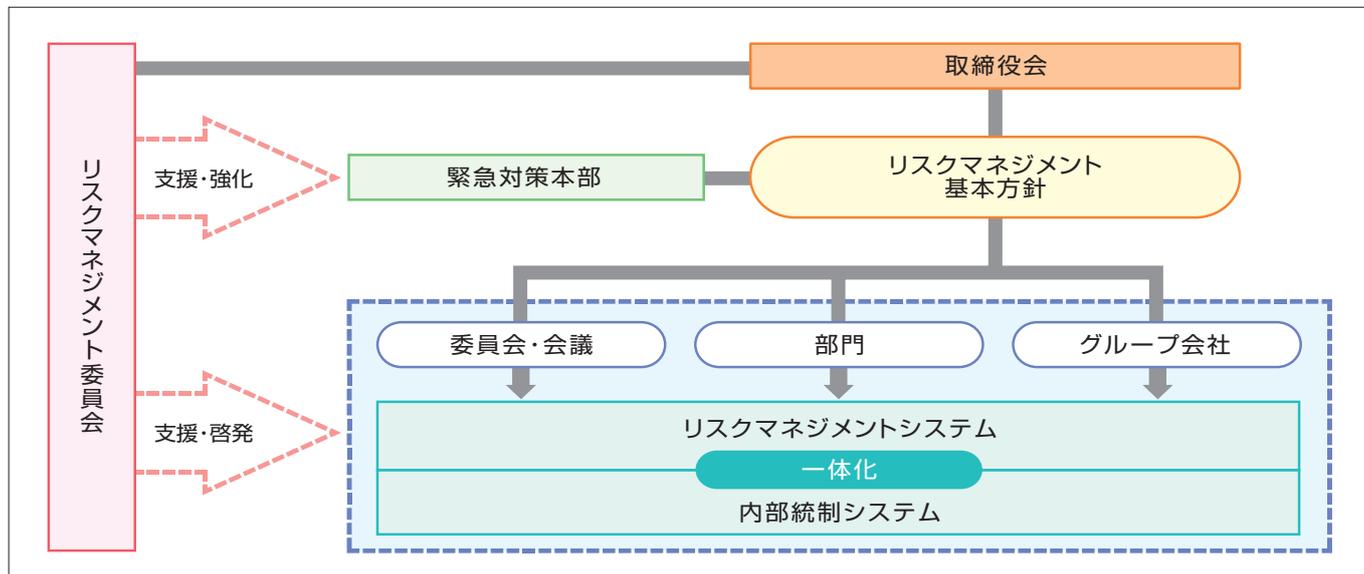
#### ● 基本方針

あらゆるリスクに対しての最適な対応策を講ずるとともに、リスク発生時において、被害を最小限に留めるべく、迅速かつ最善の対応を図る。

#### ● 体制

取締役会の諮問機関として2004年より「リスクマネジメント委員会」を設置、全社的なリスクマネジメント体制の構築と運用、クライシス対応、教育・啓発に取り組んでおります。また内部統制とリスクマネジメントを一体化させ、両者の機能が最大限に発揮できるリスクマネジメント体制の構築を目指しています。

#### ● リスクマネジメント体制図 ●



### 2006年度における主な取り組み

2006年度におけるリスクマネジメント委員会の主な活動としては、日清オイリオグループ(株)におけるリスク調査に基づいて抽出した「経営における重要なリスク」を中心に、2006年度の取り組み目標設定、実行、評価・検証、改善のリスクマネジメントシステムの具体的な運用方法を確認しました。

また、新たに物流異常、労働災害などを「経営における重要なリスク」

として位置づけました。社内における周知徹底・教育の一環として、社内イントラネット上に「リスクマネジメントデータベース」を開設し、リスクマネジメント基本方針はもちろんのこと、各部門におけるリスクとその低減・予防策を一覧化し、再確認できる仕組みにしています。クライシス対応としては、品質トラブルに対する緊急対策体制などを整備しています。

# 品質を向上させるための取り組み

「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。お客様の声を絶えずお聞きして、“植物のチカラ”を独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。

## 安全・品質への取り組み

### 行動規範への明記

日清オイリオグループは「日清オイリオグループ行動規範」において、以下の通り「顧客価値の追求」について明記し、これに基づいて安全で安心できる商品・サービスの安定的な提供に取り組んでいます。

#### ●顧客価値の追求●

- 最良の質をもって提供するよう、常に商品・サービスの質の維持・向上に努めます。
- 商品・サービスの安全性を最優先とし、そのための供給・管理体制の徹底と更なる改善に努めます。
- 商品・サービスおよびその供給・管理体制について正確で分かりやすい情報を可能な限り公開し、商品情報や活動状況の透明性の維持・向上に努めます。
- 不測の事態が生じた場合は、速やかに人身・設備・環境その他への影響の可能性を整理し、その影響を最小限とするための対策を講じます。同時に、その原因究明と根本的な再発防止対策を行い、これらに関する情報を可能な限り公開するよう努めます。
- 常にコストダウンのためのあらゆる施策を講じ、お客様に満足頂ける価格での商品・サービスの提供ができるように努めます。
- お客様の満足度を基点として、その声に、迅速かつ誠実に対応するとともに、他社に先駆けて、お客様の生活を豊かにする新たな価値を創造・提案し続けることに努めます。

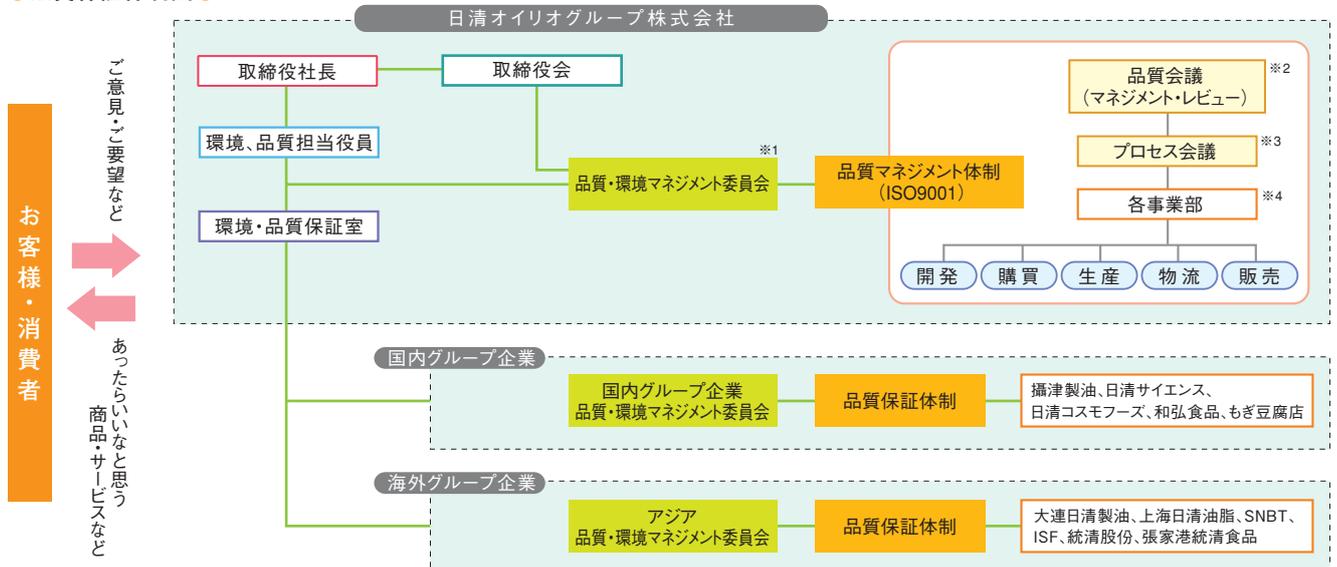
### 品質保証体制

品質保証に対しては、取締役会に直結する諮問機関「品質・環境マネジメント委員会」を設置しています。品質保証にかかわる経営課題の抽出、ISO9001に基づいた品質マネジメントシステムの統括を行う委員会のもと、システム運用全般に関する情報共有と経営者からの指示事項の徹底を担う「品質会議」、運用全般を把握し、部門横断的な課題解決を図る「ISOプロセス会議」を経て、事業部ごとに実行経営者、実行品質管理責任者を置く、きめ細やかな運用が可能な体制になっています。さらに2006年度から、国内外のグループ企業まで含めた全事業活動としての品質保証体制の構築を推進しています。またシステムの確実な運用を実施するために、「環境・品質保証室」が運用支援を行っています。



国内グループ企業品質・環境マネジメント委員会

#### ●品質保証体制図●



※1：品質および環境マネジメントに関する統括 ※2：品質マネジメントシステムの運用全般に関する情報共有、経営者からの指示事項の徹底

※3：品質マネジメントシステムの運用全般の把握、および部門横断的な課題解決 ※4：事業部ごとに実行経営者、実行品質管理責任者を置くサブシステムで、きめ細やかな運用を図っています。

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## ISO9001等認証取得状況

日清オイリオグループは、早くから品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しています。今後は、国内外グループ企業へ「ISO9001」や「ISO22000（食品安全マネジメントシステム）」などの認証取得の準備を進めていく予定です。

### ●日清オイリオグループの認証取得状況●

認証	取得状況
ISO9001	日清オイリオグループ(株)、日清コスモフーズ(株) 攝津製油(株) 攝津製油(株)堺事業所油脂工場※1 大連日清製油有限公司、張家港統清食品有限公司 上海日清油脂有限公司、SNBT
ISO17025※2	大連日清製油有限公司
HACCP※3	大連日清製油有限公司、上海日清油脂有限公司、ISF
AIB※4	日清オイリオグループ(株) 横浜磯子工場加工油脂工場
ISO22000	日清サイエンス(株)

※1 ISO9001とISO14001の統合認証

※2 国際的な試験所認定規格(範囲:品質管理室における油脂・油粕の一般分析)

※3 食品の衛生管理システムの国際標準

※4 AIB(米国製パン研究所)の確立したAIBフードセーフティ(GMP)指導・監査システム

## 品質監査

ISO9001品質監査は、内部監査と外部審査で実施しています。内部監査は、外部講師による監査員養成セミナーの修了者を有資格者とし、「品質・環境マネジメント委員会」により164名が任命されています。2006年度は、物流関連会社を含む78の部署・プロセスを対象に、品質目標の進捗状況や委託先を含む品質トラブルの再発防止を重点テーマとして、内部監査を実施しました。監査にあたっては、現場監査、生産拠点間監査、事業部間監査など、異なる視点をもった相互監査を実施し、多様な運用を図っています。内部監査実績としては、改善指摘が12件、改善の機会が89件抽出されました。また、外部審査では、改善指摘はなく、改善の機会が27件抽出され、認証が更新されました。ここで指摘・提案された事項については、監査員によるフォローアップ・確認を徹底し、改善活動につなげています。



現場におけるISO9001審査(水島工場)

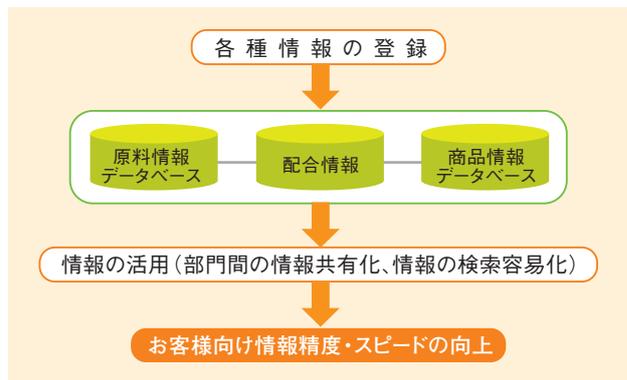
## トレーサビリティとデータベースシステムの活用

食物アレルギーや残留農薬、商品の適正表示など、食の安全性に対するお客様の関心はますます高まっています。安全で安心できる商品をお届けするためには、商品の履歴を迅速にたどることが

できる体制の整備が欠かせません。日清オイリオグループでは、ISO9001における手順書、記録により、原材料から生産、販売までの履歴情報を確認できる仕組みを構築しています。商品名および賞味期限などの情報からは、原材料のロットや製造時の情報を確認できる仕組みとなっています。

また、原材料の取引開始時にメーカーから原材料規格書入手し、使用にあたっての安全性を確認しています。従来、これら原材料、商品の情報は各部門ごとのシステムで運用して来ましたが、2007年3月に情報を一元管理するデータベースシステム(I-base)を構築し、運用を開始しました。このデータベースシステムを活用することにより、部門間での情報の共有化が進むとともに、情報の検索が容易になります。今後は、お客様へ提供する情報の精度やスピードがさらに向上し、品質保証の質的なレベルアップを図ることができます。

### ●I-baseシステムの概念図●



## VOICE

日清オイリオグループ(株)  
名古屋工場  
品質管理グループ  
安藤 実紗



日々、お客様の立場に立って、安全で安心できるな商品を提供するために厳しい品質検査を行っています。お客様が直接に口にされる製品を提供しているので、ここでは、決して妥協はできません。定められた手順による品質検査をするのももちろんのこと、日常使う試薬や分析機器なども、より高い信頼性を得るために管理を徹底しています。また、私達自身も定期的な分析精度の確認や講習会などに参加して、常に技術向上に努めています。

## 品質を向上させるための取り組み

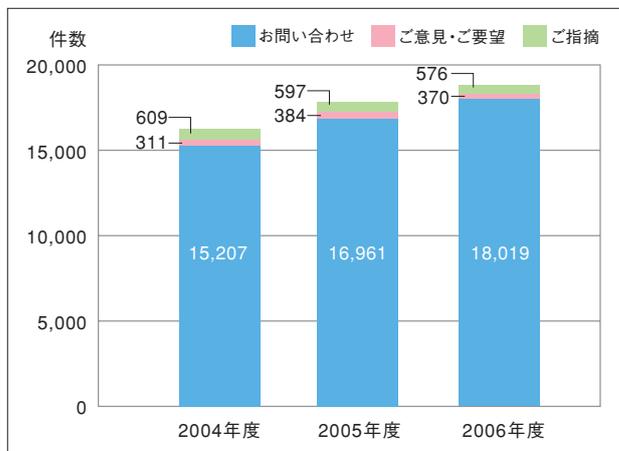
### お客様の声を活かす取り組み

日清オイリオグループでは、お客様からの商品・サービスに関するお問い合わせ、ご指摘を「お客様相談窓口」で受け付けています。お客様にご満足いただくために、「正確」・「丁寧」・「迅速」な窓口対応に努めるとともに、どんな小さなお客様の声でも新商品の開発や改善につなげる体制をとっています。お客様の声は全てデータベースに蓄積し、随時、生産拠点、販売部門、商品開発部門など全社で共有しています。さらに、お客様からいただいたご指摘は毎週経営陣、関係部門責任者に報告し、全社的視点での迅速な原因究明、改善対応につなげています。

### ●お客様の声を商品に活かす仕組み●



### ●お客様相談窓口へのお申し出件数(年度推移)●



2006年度は、お客様から約19,000件のお申し出を「お客様相談窓口」にいただきました。お申し出総数の約95%がお問い合わせで、消費者の食の安全・安心に対する関心の高まりを背景に年々増加しています。お問い合わせ内容の内訳は、商品特徴・使用方法など「商品の内容に関するご質問」が約40%、「賞味期限に関するご質問」が約29%、「販売店や入手方法に関するご質問」が約12%となっています。

### お客様からのお問い合わせ例

#### Q. 疲れた油の見分け方を教えて!

A. 次のような状態になりましたら、油が疲れています。

- ①いやな臭いがしませんか? ②色が濃くなっていませんか?
- ③泡が消えにくくなっていませんか? ④ねばりがでていませんか?
- ⑤180℃位で煙が出ませんか?

#### Q. エキストラバージンオリーブオイルとオリーブオイル(ピュア)の違いは?

A. エキストラバージンオリーブオイルとはオリーブの果実を搾ってろ過しただけの、バージンオイルです。オリーブオイル(ピュア)は、精製オリーブオイルにバージンオリーブオイルがブレンドされ食べやすい風味に調整したものです。一般にエキストラバージンオリーブオイルはサラダやマリネ、ドレッシングなど生食に、オリーブオイル(ピュア)は焼きもの、炒め物など加熱料理によいといわれています。



お客様相談窓口

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## お客様の声を活かした事例

### 事例 1

BOSCOエキストラバージンオリーブオイルの透明瓶商品(250ml、500ml)で、「光により油が退色する」というお客様の声をもとに、着色瓶に変更しました。着色瓶にすることにより、より品質を維持できるようになりました。



### 改善事例

### 事例 2

日清キャノーラ油ヘルシーライト1000gプラスチック容器で、「ラベルがはがしにくい」という声をいただきました。ラベルの材質を紙からポリプロピレン製フィルムに変更することにより、より簡単にはがせるようになりました。



### 改善事例

### 事例 3

当生活科学研究室の調査で、炒め調理時の不満点として「食器・調理器具の油よごれが落ちにくいこと」が上位にランクされました。この不満を解消する、キッチン「ラク」を追求した商品「日清 調理・片づけがラクになる油」を発売しました。



### 開発事例

## ユニバーサルデザインフード

高齢化社会の進行にともない、介護を必要とする高齢者はますます増加しています。日清オイリオグループは、日々の生活に欠かせない食品を製造している企業として、社会に少しでも役に立ちたいとの思いから、高齢者・介護対応食品の販売を行っています。

### <ユニバーサルデザインフードとは?>

2002年4月に発足した日本介護食品協議会では、介護食品の名称を「ユニバーサルデザインフード」とすることにしました。加齢などで「かむ力」や「飲み込む力」が弱くなった方も食べやすいように、ペースト状にしたり柔らかく加工した食品です。また、水やお茶が飲み込みにくいという方には、とろみをつけて、むせないように配慮したものです。どんな方でも食べやすい介護食品が「ユニバーサルデザインフード」で、商品にロゴマークを表示しています。



### <トロミアップV>

トロミアップVは、とろみ調整機能をもった商品で飲み物や食べ物に混ぜるだけで、簡単にとろみをつけ飲み込みやすくすることができます。



## VOICE

日清オイリオグループ(株)  
環境・品質保証室  
お客様グループ  
村松 義彦



電話をくださったことに感謝し、わかりやすく丁寧な言葉づかい、表現で説明することを心がけています。お客様からのご意見、ご提案は、当社にとってとても大切なものです。商品が選びやすく、使いやすい商品の開発・改善に向けて全社で取り組んでいきたいと考えています。

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## お客様への情報提供の取り組み

### 植物油の美味しいおはなし

油と健康、油の上手な使い方をテーマにした油の便利Book『植物油の美味しいおはなし』を発行しています。「植物油がカラダにいいワケ」「油の上手なとり方」など油の魅力をたっぷり紹介しています。



### 食と生活情報レポート

食卓に関する調査・研究を継続的にを行い、『食と生活情報レポート』を発行しています。2006年8月発行No.8では、「少子化時代の食スタイル」について分析を行いました。こちらは、ホームページでも公開しています。



- 食と生活情報レポート  
<http://www.nisshin-oillio.com>

### 日清オイリオホームページ

企業情報を日本語のほか、英語、中国語でご案内しています。日本語ページでは、電話でのお問い合わせ先をテーマごとにご案内しているほか、よくあるご質問に対応した「油に関するQ&A」や「商品カタログ」、人気の「オリーブオイルレシピ」や「お中元・お歳暮の基本マナー」などの情報を提供しています。また、お気軽に携帯電話からご覧になれるモバイルサイトでは、季節のレシピ、キャンペーンのお知らせなどをご提供しています。



油に関するQ&A

- 日清オイリオホームページ  
<http://www.nisshin-oillio.com>
- オイリオギフト.com  
<http://www.oillio-gift.com>
- 日清オイリオモバイル  
<http://m.nisshin-oillio.com>

### BOSCOサイトが広告コンクールで金賞を受賞

「第46回消費者のためになった広告コンクール(社団法人 日本広告主協会主催)」Web部門において当社BOSCOサイトが金賞を受賞しました。「オリーブオイルレシピ」や日本で唯一のオリーブオイルテイスターによる「オリーブオイル講座」、オリーブの新芽から完熟まで写真で綴る「BOSCO季節のお便り」など豊富なコンテンツが評価されました。



- BOSCOサイト  
<http://www.bosco-olive.com>

### 中国で10万人食べ比べ実証キャンペーンを実施

中国の家庭で一般的に使われている「一級大豆油」と超・あぶらっこくない「健康利多(日清キャノーラ油ヘルシーライト)」をそれぞれ使用した料理を食べ比べていただきました。日本の最高級の精製技術によって製造された「ヘルシーライト」を中国の方々にも体験していただきたく、上海と広東省で10万人を対象に試食による食べ比べを行っています。



お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## より良い商品づくりのための取り組み

フェアネス(公平・公正)に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、共に成長していきます。

## 調達の方針

商品の容器包装、ラベル、段ボールなど、原料以外の資材の調達にはロジスティクス部資材グループが行っています。調達などに関する基本方針は、「日清オイリオグループ行動規範」に以下の通り明記しており、資材グループはこの方針をふまえて資材調達先を選定し、資材の価格や規格、設計・開発に関して取引先様と緊密な関係を保っています。

## ●ビジネス社会の法令および倫理の遵守●

- 原料・資材等の購入先などに対しては、常に公平かつ対等な立場で接し、優越的地位を利用して不当に不利益をおよぼしません。また、個人的な利益や便宜の供与を要求しません。
- 販売店などに対しては、常に公平かつ対等な立場で接し、排除行為・不当に差別的な取扱い・事業活動の妨害などの不正行為を行いません。
- 取引先などとの接待や贈答品の授受は、健全な商慣習や社会的常識の範疇を逸脱しません。

## 取引先様との連携による品質改善

日清オイリオグループが資材調達において最も重視しているのは品質で、各種法令に定められた事項の遵守はもとより、ISO9001に基づく品質管理を行っています。

取引先様とは、日清オイリオグループの「品質方針」をお伝えした上で、品質の維持・改善のために日常的に緊密なコミュニケーションをとるとともに、定期的に合同会議や生産工程の監査(2006年度実績29件)を実施するなど、品質向上のための情報交換を行っています。万が一品質に問題があった場合は、そのつど特別な監査を実施し、日清オイリオグループの要望をお伝えしています。

## 容器の改善事例

## ＜生分解性プラスチックをキャップシールに採用＞

ヘルシーリセット600gに続いて、ヘルシーコレステ600gのキャップシールも生分解性プラスチックを使用しました。



生分解性プラスチック

## ＜製品の外函にハイブライト紙を使用＞

キャノーラ油1000gシリーズの外函にハイブライト紙を採用しました。環境に配慮して新聞古紙と未漂白パルプのブレンド紙を使用しています。未漂白パルプは、植林木から発生する間伐材および廃材を主体に使用しています。



製品の外函にハイブライト紙を採用

## VOICE

日清オイリオグループ(株)  
ロジスティクス部  
資材グループ

宮澤 秀博



包装資材の取引先様とは、常に公正・公平かつ対等な立場で接する方針のもと、品質を最も重視し、良好な関係を保持しよう心がけております。共同での取り組みとして、容器の減量化・減容化の推進、環境にやさしい植物由来の素材の採用などに加え、お客様の利便性向上の視点から、さらに「持ちやすい」、「注ぎやすい」、「分別廃棄が容易」などを実現するため、幅広く情報交換を行い、よりよいものをつくるよう心がけております。

## 適切な情報開示の取り組み

健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主様との双方向コミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上、適切な利益還元に努めます。  
また、広く投資家の皆様に向けて、適切な情報開示を行います。

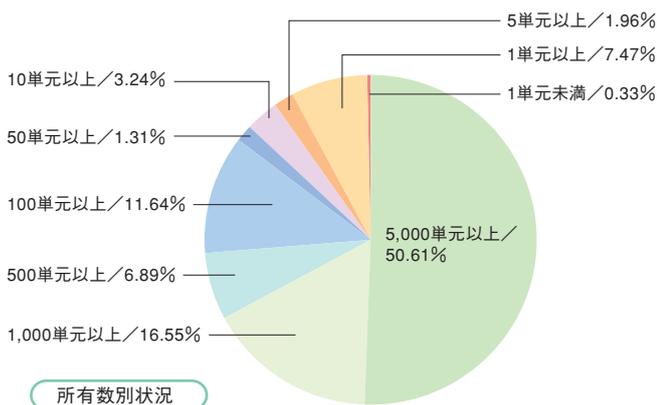
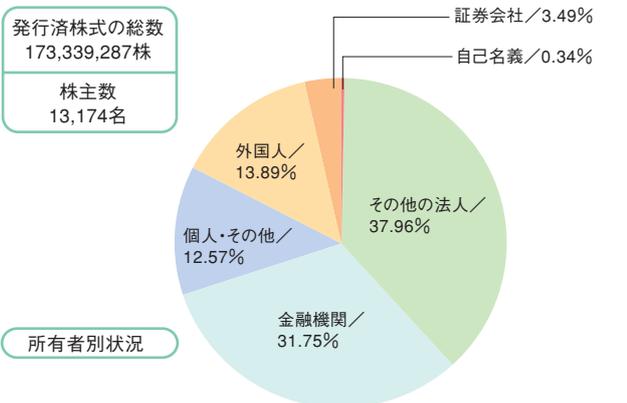
### 株主価値の追求は行動規範の一つ

透明性の高い企業経営によって利潤を追求し、企業価値を向上して持続的な発展を実現することが、株主・投資家の皆様に対する日清オイリオグループの責務です。その遂行のための考え方は、以下の通り「日清オイリオグループ行動規範」にも明記しています。

#### ● 株主価値の追求 ●

- 誠実な事業活動、経営資源の効率的な活用、適切なリスク管理を通じて企業の利潤を追求し、株主の期待に応えます。
- 株主・投資家の適切な判断に資するよう、当社グループの活動・組織・財務状況・業績などの開示のみならず、将来の成長戦略や企業の社会的責任（CSR）に対する取り組み等の経営情報を常にタイムリーに開示するよう努めます。

#### ● 株式分布状況（2007年3月31日現在） ●



### 2006年度の主な活動

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション、情報提供のための取り組みとしてさまざまな活動を行いました。個人投資家の皆様を対象として、IRフェアへ参加しました。ブースにご来場いただいた一人ひとりに、日清オイリオグループの経営理念や事業戦略をご説明するとともに、さまざまなご質問をいただきました。また、説明会会場では、多くの方々に熱心にお話を聞いていただきました。ほかにも投資クラブを対象とした工場見学会を実施し、当社製品ができるまでの工程をご覧いただき、製品への理解を深めていただきました。機関投資家、アナリストの皆様とは、中間決算発表、期末決算発表に合わせて決算説明会を開催し、業績や経営戦略についての説明をしました。個別でのミーティングを積極的に行い、延べ59回実施しました。



個人投資家様向け説明会



IRフェア風景

### 株主様への利益還元

日清オイリオグループは、利益配当につきましては、安定的な配当の継続を基本としつつ、中期経営計画の達成状況、連結業績を勘案し、配当性向も考慮したうえで実施していく方針としています。2007年3月期は、0.5円の増配の1株につき8.0円（中間配当4.0円）とともに創立100周年の記念配当2.0円を加え、年間で1株当たり10.0円の配当金といたします。

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## 株主優待制度

毎年3月31日現在の株主名簿に記載され、1,000株以上を所有される株主様に、3,000円相当の日清オイリオグループ製品をお贈りしています。



2006年の株主優待品

## IRツール

正確で信頼性の高い情報をタイムリーに提供するため、ホームページのIR情報をリニューアルしました。売上高、損益の推移などをグラフ化し、業績ハイライトのサイトで見やすいように改善しました。また、携帯電話でのIR情報配信を行っています。ほかにアニュアルレポート(英文)、報告書(旧事業報告書)などを通じて、わかりやすい情報開示に努めています。

● IR情報 <http://www.nisshin-oillio.com/inv/>

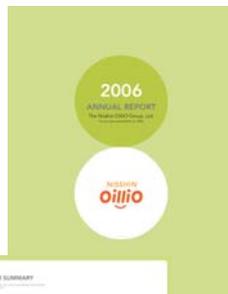
● 携帯電話でのIRサイト <http://m-ir.jp/c/2602>



HP画像(IRサイト)



報告書(旧事業報告書)



アニュアルレポート

## 決算説明会

アナリストやマスコミを対象に年2回、決算説明会を開催しています。経営トップから決算状況や中期経営計画の進捗状況などを説明し、タイムリーな情報をご提供するよう努めています。また、決算説明会で使用した補足資料をホームページで開示しています。

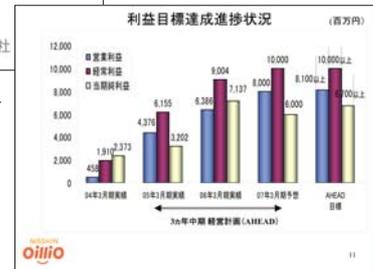
2006年(平成18年)3月期  
決算説明会



2006年5月24日  
日清オイリオグループ株式会社

決算説明会資料

決算短信



## 株主様アンケートの実施

株主様へのアンケートを実施し、1,573名の株主様からご回答をいただきました。利益還元策や希望する情報などについて、貴重なご意見を頂戴いたしました。

### VOICE

日清オイリオグループ(株)  
広報・IR部  
鞍橋 俊幸



株主・投資家の皆様とのより良いコミュニケーションを築いていけるように心がけています。昨年参加したIRフェアでは、個人投資家の皆様からさまざまなご意見、ご質問をいただきました。当社へご注目いただいた感謝の気持ちとともに、当社への期待の大きさへの責任を痛感しています。今後は、コミュニケーションの機会を増やし、皆様の声をより多く聞き、きめの細かい情報発信に努めていきます。

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

# 一人ひとりのチカラを引き出すための取り組み

時代に合った働きやすい環境を整え、従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした安全で衛生的な職場を実現します。

## ●従業員価値の追求●

- 常に安心できる安全・高品質な商品、サービスをお客様に安定的に供給する使命に誇りを持ち、常にチャレンジ精神を持って、業務に関する能力の向上、積極的な業務改善・効率化に努めます。
- 従業員一人ひとりの基本的人権を尊重し、職場における不当な扱いや差別を排除します。また、自己実現と業績向上を基本とした公正な評価・処遇をすることに努めます。
- 従業員一人ひとりの個性・適性を尊重し、それぞれのキャリア形成や能力開発を積極的に支援します。また、次代の中核となる「豊かな創造性、高度な専門性、強い行動力と課題解決力」をもつ人材の育成に努めます。
- 相互の報告・連絡・相談を円滑かつ正確に行い、お互いが信頼し協力しあえる風土作りに努めます。また、常に職場環境の安全衛生の維持・向上に努めるとともに、従業員と家族の安心をつくりだすことに努めます。

## 新プロフェッショナル人事制度

社員一人ひとりが、高度な専門性に裏付けられた行動力をもって成果を出すプロフェッショナルであってほしいと考えています。2000年に「能力開発・成果主義」を基本理念とする人事制度を導入したのはこの考え方に立ってのことですが、この制度の特長は、単なる成果主義ではなく、社員個々の能力向上開発を会社が支援することを前提としている点にあります。

導入にあたっては、労働組合とともに発足させた「労使検討委員会」での議論を経て年功型から脱皮する考え方として合意形成を行いました。

## 目標実現制度

人事制度の中核となるシステムの一つで、社員一人ひとりが「業績達成目標」と「専門能力開発目標」を掲げ、この達成状況を定期的に評価しさらなるステップアップにつなげていく「目標実現制度」があります。

- この制度は、
- (1) 社員一人ひとりの目標と達成度を明らかにすること
  - (2) 改革や創造への動機づけを行うこと
  - (3) 社員一人ひとりの能力開発のニーズを把握すること
  - (4) 挑戦的、競争的風土を醸成すること

を目的としており、自己実現（個人の成長）と業績向上（会社の発展）の両面を達成させる仕組みとして運用しています。社員一人ひとりの目標設定は半年ごとに行われ、社員相互に内容が閲覧できるなど透明性の高い仕組みとしています。

## キャリア・デザイン制度

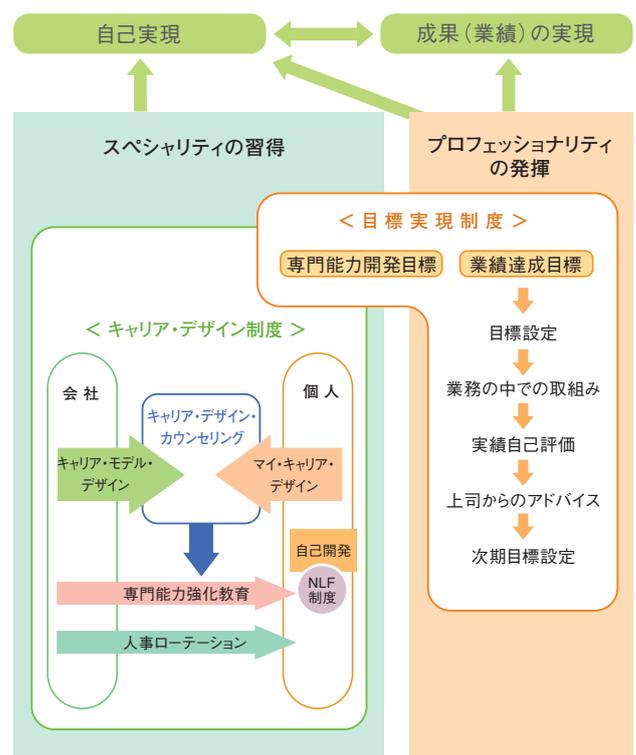
もう一つの人事制度の中核となるシステムで、社員一人ひとりが主体的かつ自立的にキャリアを描き、描いたキャリアを形成してい

く姿勢を会社が積極的に支援していく制度です。この制度を通じて、社員はよりプロフェッショナルなキャリア人材となり、より高い目標に向かって事業・戦略を推進していきます。

新プロフェッショナル人事制度は「目標実現制度」と「キャリア・デザイン制度」を両輪として成り立っており、この二つの制度が相互にリンクし合って期待される成果・業績が達成されるのです。

また、今後の制度運用の中で課題が出てきた場合には、そのつど柔軟に見直し、改善していくこととしています。

## ●目標実現制度とキャリア・デザイン制度の関係図●



お客様とともに

取引先様とともに

株主投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## 充実した教育研修制度

長年にわたって「教育は全ての業務に優先する」という考え方のもと、社員教育の充実に力を入れており、階層別教育、部門別教育、自己開発教育など体系的な教育研修制度を整えています。特に、安全で安心できる商品をお届けする食品メーカーに不可欠な教育として、品質管理面でのISO教育や、「惣菜管理士」などの資格取得のための教育にも力を入れています。

2006年度には新たに「シニアエンジニア研修」を実施し、生産現場における技術・技能の伝承を確実に行う体制づくりにも着手しました。また、労使にて定めているNLF（日清ライフファンド）制度により、語学スクリーニングやTOEIC受験、通信教育受講、資格取得支援など自己開発教育への補助やさまざまなセミナーへの派遣なども行っています。

### ●教育・研修体系●

	階層別教育		部門別教育	新領域教育	自己開発教育	その他
	(基本教育)	(選抜教育)				
業績職	評価者教育	事業経営力強化教育				
準業績職・上級職	準業績職・上級職教育	経営アカデミー	部門別専門能力強化教育	新領域専門能力開発教育	NLF制度	海外研修
基幹職	ビジネス行動力育成教育(上級)					留学
	ビジネス行動力育成教育(初級)					
準基幹職	新入社員教育					

### ●NLF事業 活動実績●

活動	内容	参加者
ライフプランセミナー	キャリア、健康、年金、保険、余暇などライフプランに関する講義や実習を2月に実施	16名
海外セミナー派遣	グローバルな視野の獲得を目的に、2月12日～17日に米国総合小売業、外食産業などの視察旅行への派遣を実施	8名
語学スクリーニング補助	語学学校での学習費用の補助金を支給	22名
通信教育講座	通信教育講座受講に対して奨学金を受講料全額または一部支給	693名
資格取得支援	国家資格取得者への受験料支給および会社指定の公的資格の受験料支給	76名
TOEIC受験支援	TOEIC受験者に受験料を支給(回数上限無し)	20名

## 障がいのある方の雇用のための子会社設立

障がいのある方の積極的な雇用を推進しています。2004年4月より、障がいのある方の安定雇用によって社会的責任を果たすことを目的とする特例子会社「日清オイリオ・ビジネススタッフ株式会社」をスタートさせました。横浜磯子事業場内の清掃業務を中心に能力開発を支援しています。

## ボランティア休暇制度の導入

社会福祉・地域活動・災害救援などの分野でボランティア活動を行う社員に対して、自らが社会貢献活動に参加しやすい環境の整備を行うため、特別休暇(年間最大6日間)を付与するボランティア休暇制度を2007年4月より導入しました。

### ●人事関連の各種制度(一例)●

	内容	実績
半日休暇	年次有給休暇のうち4日分(半日休暇8回分)を半日休暇として取得できる	有効に活用されている
積立有給休暇	年次有給休暇を積立て(年間5日累積40日分を限度)私傷病で7日以上連続不就業となる場合に取得ができる	有効に活用されている
永年勤続表彰制度	勤続10年：記念品の授与 勤続20年：旅行券5万円・特別休暇3日 勤続30年：旅行券10万円・特別休暇5日	2006年度対象者：76名
育児休職制度	子が小学校就学前の場合、従業員が申し出た必要な連続した期間取得できる	取得率100% (7人出産中7人取得)
介護休職制度	要介護状態の家族を持つ場合、1年以内の期間取得できる	なし

## VOICE

日清オイリオグループ(株)  
知的財産管理室  
平山 佳子



第一子、第二子出産の際に、ともに約1年間の育児休職制度を使いました。現在、二人の子供を育てながらフルタイムで働いています。家族の支えと職場の皆さんの理解により、仕事を続けられていることに感謝しています。育児休暇取得の際は、復帰後の仕事はどうなるか不安でしたが、元の職場に戻ることができ安心して仕事ことができました。これからもっと多くの仲間ができれば嬉しいです。

# 安全で働きやすい職場づくりの取り組み

## 防災基本規程

日清オイリオグループは、生産・研究開発部門に共通する防災管理の基本的枠組みとして「防災基本規程」を策定し、各事業所はこれに則り、地域特性や条例などを反映した独自の防災管理を実施しています。

### ●防災管理の基本的枠組み●

#### 1. 基本理念

「発生させない! 拡大させない! 早期復旧する!」

- 構内従事者・外来者の安全確保と安心して働ける職場づくり
- 安定操業・出荷体制の堅持によるメーカーとしての企業基盤の確保
- 取引先の操業確保・地域社会からの安心感維持などによる社会的信用の維持・向上

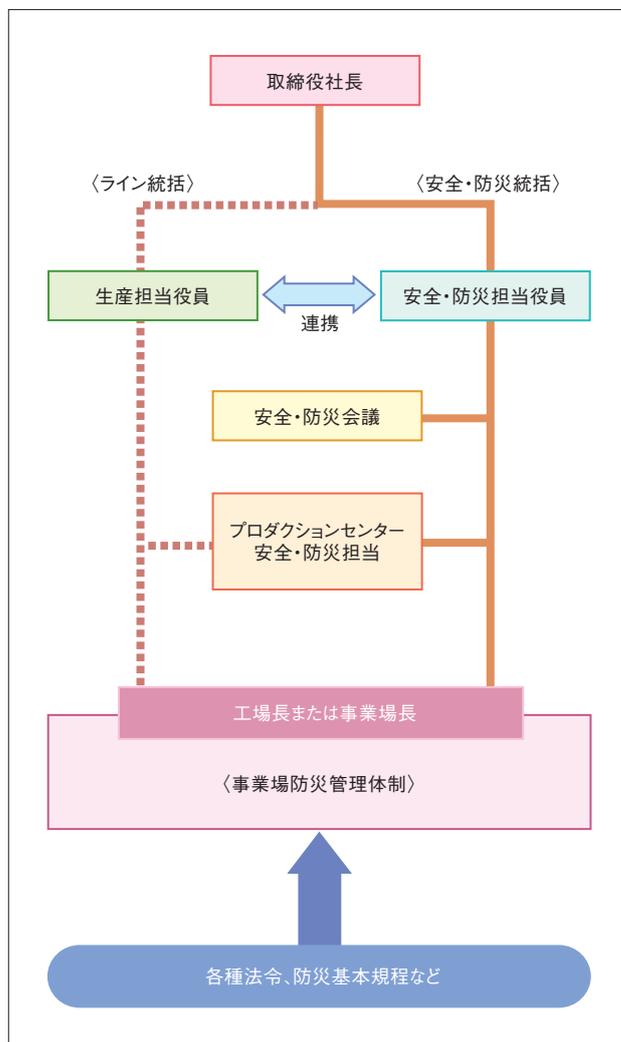
#### 2. 防災管理における3つの柱

- ① 予防管理
- ② 発災時管理 (被害拡大防止・早期復旧)
- ③ 意識・行動管理

## 全社的な防災体制

日清オイリオグループでは「安全・防災担当役員」が、全社的な安全・防災管理を統括しています。緊急事態には、緊急対策本部長 (取締役社長) が副本部長である「安全・防災担当役員」の補佐を受け、被害拡大防止や早期復旧のための指揮命令発動を担います。一方、生産部門のライン統括を行う「生産担当役員」は、「安全・防災担当役員」との連携のもと、生産部門の安全・防災体制の維持・強化を図ります。「プロダクションセンター安全・防災担当」は各事業所と連絡を取りながら連携体制の維持・強化を行います。また、「安全・防災担当役員」を座長とする「安全・防災会議」が原則として年2回開催され、全社的な安全・防災管理の維持・強化のための指針や施策の諮問などを行っています。

## ●防災体制●



## 各事業所の防災体制

各事業所では、「安全・防災会議」での検討事項をふまえて、事業所長を委員長とする「安全衛生防災委員会」を月1回開催し、安全で働きやすい職場づくりのための取り組みを進めています。社外の組織体としては、事業所周辺の企業から構成される「労働基準協会」などがあり、各企業共通のテーマを設定して講演会などの啓発活動を展開しています。各事業所では年度ごとに方針、目標を見直してスローガンを策定、重点活動項目を設定して年間活動計画にまとめ、これに基づいて活動しています。

名古屋工場を例にとると、身近なところから整理整頓などの改善活動を行なう、名工アタック20 (VPM)※の活動を2006年度より展開しており、この活動を基盤とした安全衛生防災活動指針を設定しました。

※VPM: Value Producing Management 価値を生み出す管理手法

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

● 名古屋工場における安全衛生防災活動 ●

活動指針・・・・・・・・・・・・・・・・

【安全】スローガン： 潜在リスクの洗出しで！  
めざせ災害ゼロ！

災害ゼロを目指し、安全文化の定着活動として「徹底したリスクの洗出し」、「コミュニケーション活動の活性化」を引き続き実施し、個人の危険に対する感受性アップを目指します。

【衛生】スローガン： 明るく、楽しく、美しくを合言葉に！  
めざせ健康工場・食品工場化！

働く全ての人の衛生意識を向上させるため、まず足元の清掃活動から始めて、衛生性のレベルアップを目指します。健康面ではトレーニングルームなどの活用を通してメンタル・体、両方の健康増進を目指します。

【防災】スローガン： リスクの先取りで！  
めざせ無災害！

「リスクの洗出しと対策」、「過去の事例検証」を行い、訓練などを通して、常に危険に対して先取りした姿勢で取り組み、ゼロ災を目指します。

安全衛生防災リスクアセスメントの実施

生産拠点において安全衛生防災のリスクアセスメントを実施しております。また横浜磯子事業場、名古屋工場ではOSHMS※に準じた独自のシステムを導入、運用しています。

※OSHMS：厚生労働省指針（平成11年度労働省告示第53号）に基づいた労働安全衛生マネジメントシステム

● 労働災害発生件数 ● (件数)

	2004年度	2005年度	2006年度
磯子事業場	0	0	0
名古屋工場	0	0	1
堺事業場	0	0	0
水島工場	0	0	0

従業員ベース、休業災害1日以上

● 無災害記録 ●

	無災害日数(日)	無災害時間(万時間)
磯子事業場	1,385	213
名古屋工場	250	13
堺事業場	3,416	25
水島工場	1,341	55

2007年3月31日現在

防災訓練

各事業所では万が一を想定し毎年2回自衛防災組織を中心に総合防災訓練を実施しており、火災発生場所の初期対応、拡大防止措置、油流出防止、救護活動などを基本活動とし公設消防隊および地域企業との連携をとり日頃の防災技術の維持・向上に努めています。



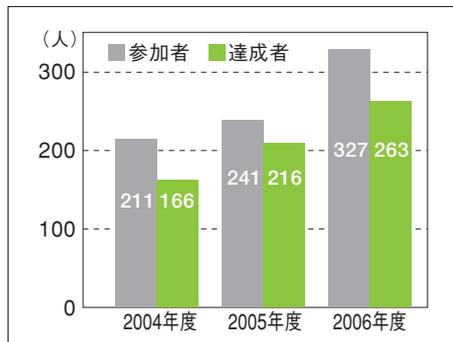
総合防災訓練 堺事業場

また、横浜磯子事業場では、震度6程度の直下型地震が発生したという想定で、従業員の安全確保と社外への連絡について職場と自衛防災組織が連携して訓練を行いました。

心身の健康づくりのために

健康診断を全社的に年2回実施しています。その結果を元にして産業医および看護師が各職場を訪問し、健康管理フォローを実施しています。メンタルヘルスに関しては、全社的な心の健康管理に向けて各種講演会を開催しています。横浜磯子事業場では、対象者別の講演会を開催するなど、相談体制を整えています。名古屋工場では、メンタルヘルスに関する研修会を2回開催したほか、メタボリック症候群対策のため、トレーニングルームを開設しました。また、健康保険組合の取り組みとして、生活習慣病予防運動(ウォーキング)を実施しています。

● ウォーキング参加者、達成者 ●



VOICE

攝津製油(株)  
管理グループ  
久米 耕太郎



私たちの職場の安全衛生防災活動目標は、事故・災害ゼロと健康への意識向上・職場環境改善との2点を掲げています。事故・災害ゼロに向けては、体感や気づきの教育と自衛防災隊といった組織、その構成員の役割明確化を重点取り組みとしています。健康に対しては、身体面だけでなく、メンタルヘルスにも取り組んでいます。構内横断歩道での指差呼称徹底のかいあって、最近では街中で指差呼称をする自分に気づき、苦笑しています。

# 社会とのコミュニケーション

良き企業市民として地域社会に貢献するとともに、国際社会の一員としても良好な企業活動や積極的なコミュニケーションを図り、社会とともに発展していくよう努めます。

## 「日清オイリオグループ行動規範」における社会への取り組み

- 地域社会の活動、災害時の救援・協力活動への参加など、良き企業市民として果たすべき責任と役割を自覚し、広く社会に資する活動に努めます。また、一人ひとりの自主的な社会貢献活動を尊重するとともに、そのための環境整備に取り組みます。
- 国際社会の一員として、関係国の法令・国際協定・自由貿易の原則を遵守し、良好な企業活動や地域社会への積極的なコミュニケーションを通じて、関係国・地域と企業が共に発展していくよう努めます。

### 社会貢献活動

#### 災害支援・寄付活動

国際連合世界食糧計画WFP協会や国際連合食糧農業機関（FAO）、日本経団連自然保護基金などの公益団体への寄付や被災地への援助を行っています。そのほかに2006年度は、被災地へ関連団体を通じて、被害義援金を寄付いたしました。

#### ●被災地への援助●

2006年 5月	インドネシア・ジャワ島中部地震
8月	長野県、鹿児島県、宮崎県豪雨災害
2007年 3月	能登半島地震

#### ベルマーク運動への参画

ベルマーク教育助成財団創設当初から40年以上にわたり、教育振興のベルマーク活動の趣旨に賛同し、同運動へ参画しています。現在、5つの商品を対象として、全国の学校施設の充実に



ベルマーク対象商品の一部

#### 地域での清掃活動

各地の事業所周辺、あるいは地域社会で、従業員による清掃活動を行っています。環境美化のために今後も継続して取り組んでいきます。

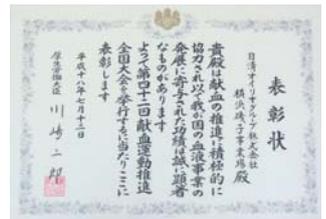


堺事業場周辺での清掃活動

#### 各事業所の献血活動

各事業所では毎年1～2回献血検診車が来場し献血活動を展開しており、2006年度は全事業所合計で111名が献血をしました。

横浜磯子事業場では1968年から献血活動を開始し39年間継続しており、長年の功績が認められ、厚生労働大臣賞を受賞しました。



#### 横浜市教育委員会よりの感謝状

2002年からスタートしている「横浜市副校長昇任候補者の民間企業等派遣研修」に2006年度から横浜磯子事業場が受け入れを実施し、7月下旬に3日間の教員研修を行いました。参加された教員や教育委員会から高い評価を受け、10月3日の研修報告会で横浜市教育委員会より表彰されました。今後も社会貢献活動として継続していきます。



横浜磯子事業場にて

#### お客様、地域社会との交流

#### 地域イベントの開催

横浜磯子事業場では、地域の皆様に施設を開放してのイベントを年2回実施しています。「横浜磯子春まつり」は、2006年で25回目の開催となり、すっかり地域の春の祭事として定着しました。また、「夏祭り」では、従業員の手づくりによる夜店や抽選会などのステージイベントが行われ、浴衣姿のお子様たちで賑わっています。



横浜磯子春まつり

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## スポーツ振興への取り組み

日清オイリオグループは、食とともに運動を通しての健康生活を提案するためにスポーツを応援しています。北京オリンピックまで(財)日本オリンピック委員会(JOC)のオフィシャルパートナーとして、卓球の日本代表選手として活躍している福原愛選手などのトップアスリートを応援するとともに、スポーツの次代を担うジュニアアスリート育成のために栄養サポートにも注力しています。また、(財)日本サッカー協会(JFA)を通じて、少年サッカー大会への協賛をしています。



福原愛選手

## 人々の健康な暮らしを支援する取り組み

日清オイリオグループは、25年以上開催されている「神奈川マラソン」を後援し、この大会のスタート地点、ゴール地点として横浜磯子事業場をご利用いただいています。また、スイミングアドバイザー木原光知子さんによる「ヘルシーアップスイミングスクール」を毎年、開催しています。なお、日清オイリオグループのホームページでは「木原光知子のヘルシー&ビューティー講座」を開設しており、水泳やエクササイズなどについての役立つ情報を発信しています。

● <http://www.nisshin-oillio.com/kihara/column/index.html>



神奈川マラソン



スイミングスクール

## 食育への取り組み

日清オイリオグループが願う食の姿は、一人ひとりが食をコーディネートし、健康でおいしい食生活を営むこと。そのために「食を育む4つのチカラ」を支援しています。

- ①身につけるチカラ：食の興味を育み、知識・調理技術を身につける。
- ②選ぶチカラ：健康的で幸せな生活の糧となる食を選ぶ。
- ③使いこなすチカラ：現代のライフスタイルに合わせて、上手に食を工夫する。
- ④伝えるチカラ：次の世代へ、育みの心と共に食を伝える。

## 料理教室

おいしい食卓を通じて幸福生活をお過ごしいただけるように、各地で料理教室を開催しています。日清オイリオグループ単独、あるいは

他企業との共同で、お客様へ食用油のおいしさや料理の楽しさを提案しています。また、オリーブオイルのすばらしさ、食卓を豊かに彩る料理へのひろがりをご理解いただくために、オリーブオイルのセミナーを開催しています。



料理教室

## 工場見学

食用油の生産現場を知っていただくため、横浜磯子事業場の工場見学を予約制にて承っており、消費者の皆様、全国の小中学生などにご利用いただ



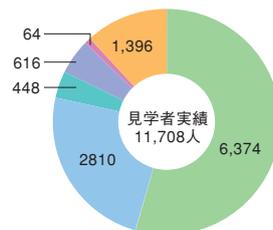
ウェルネスギャラリー

ています。環境にやさしいCNG(圧縮天然ガス)を燃料とした見学用バスを導入し、広大な工場敷地内の見学がより容易になりました。また、事業場内のPR施設「ウェルネスギャラリー」では食用油の歴史や原料、生産工程をわかりやすくご紹介しています。なお、その他の事業所、中央研究所においては取引先様を中心とする見学を承っています。

● 横浜磯子事業場 工場見学のお申し込み・お問い合わせは  
日清オイリオ ウェルネスギャラリー  
TEL.045-757-5038 / 045-757-5030

● 横浜磯子事業場の工場見学者数 ●

一般消費者	得意先
学生	海外
PTA	その他



## VOICE

日清オイリオグループ(株)  
横浜磯子事業場  
総務グループ

中溝 久美



国内最大級の製油工場である、この横浜磯子事業場の『広さ』を実感していただければ幸いです。お客様に安心してお使いいただける製品をつくるために、従業員一人ひとりが協力し、安全や品質に最大限の注意を払っていることをお伝えできればと思っています。お客様から商品を愛用して下さっているとの声をいただけるのが、一番うれしいですね。

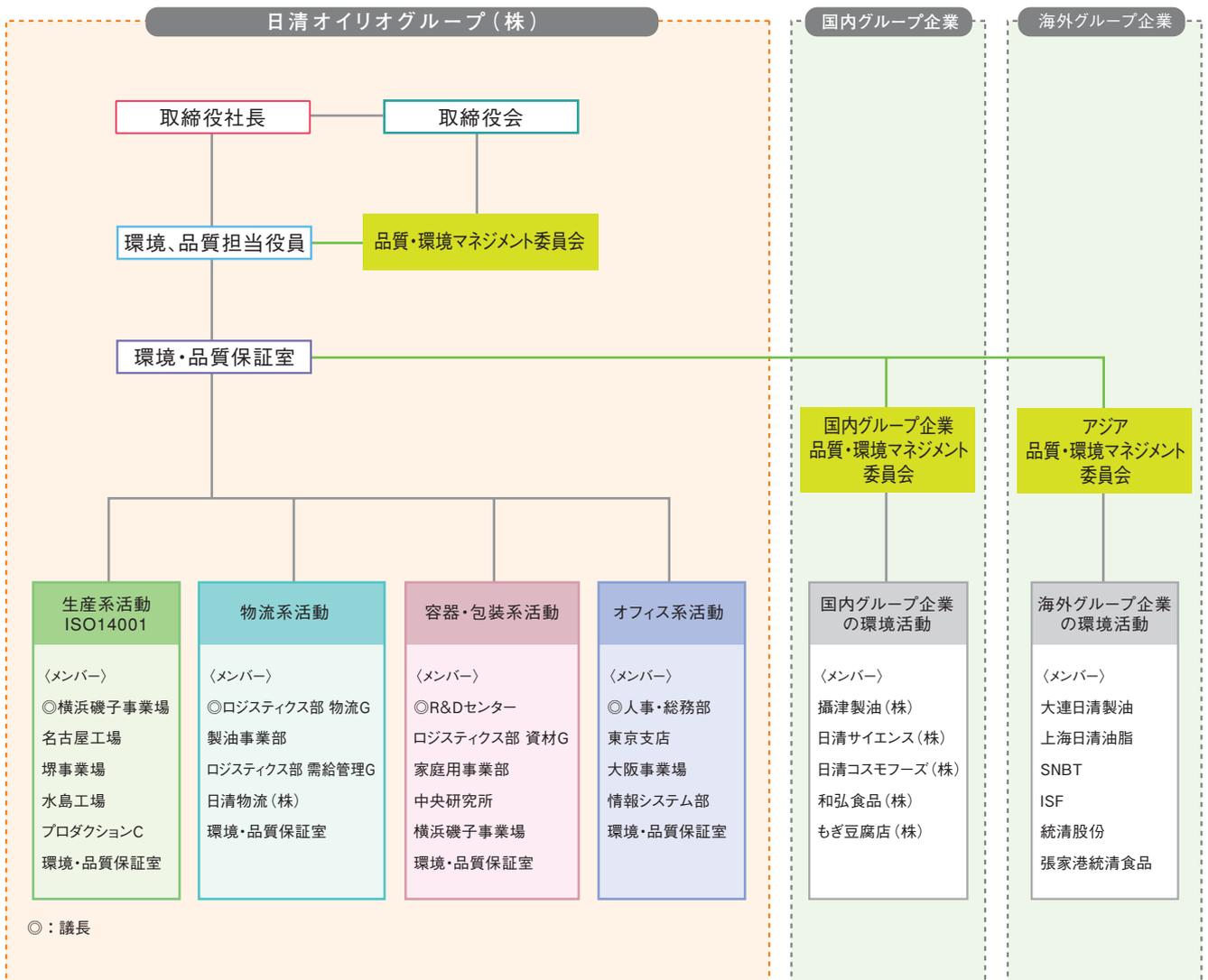
# 環境マネジメント推進体制

常に未来に向けた技術で、“植物のチカラ”を引き出し、原料・資材の調達から、生産、納品、ご使用、廃棄にいたるまで地球環境に配慮した商品・サービスの開発、ご提供を通じて、資源循環型社会の構築を目指します。

## ●「日清オイリオグループ行動規範」における環境への取り組み●

- 資源循環型社会の構築を目指して、「3R活動 (Reduce・Reuse・Recycle) 」を実践するとともに、資源・エネルギーの利用の効率化による地球温暖化対策に主体的に取り組めます。また、当社グループの環境への取り組みや考え方をあらゆるステークホルダーに幅広く理解していただくことを目的に、環境に関する自社活動情報の積極的な公開に努めます。
- 安全・高品質であると同時に、省資源、省エネルギー、リサイクル、環境への影響などに着目した「自然と環境にやさしい」商品・サービスの開発・提供に努めます。

## 日清オイリオグループ環境マネジメント体制



お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## 環境マネジメント推進体制の拡大・強化

国内グループ企業、海外グループ企業それぞれに「品質・環境マネジメント委員会」を設置し、環境における課題を検討できる体制としました。今後、環境基本方針の共有化、ISO14001認証企業の拡大、グループ全体での環境監査、環境教育などを推進していきます。

また、環境の4活動体（生産系活動、物流系活動、容器・包装系活動、オフィス系活動）では、法改正（食品リサイクル法、省エネルギー法、容器包装リサイクル法など）の具体的な対応、改善活動事例などの情報交換を実施しました。今後、京都議定書以降の枠組みをにらんだ中長期環境目標の設定、原料・資材調達段階、商品開発段階での環境負荷データの把握ならびに削減、社内外に対する環境コミュニケーションの実践および積極的な情報公開に取り組んでいきます。

## ISO14001 認証取得状況

日清オイリオグループの各生産拠点では、2000年から環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を認証取得し、環境マネジメントプログラムに基づく活動を行っています。

### ● ISO14001 認証取得状況 ●

生産拠点	初回認証取得年月
横浜磯子事業場	2000年9月
名古屋工場	2003年12月
堺事業場	2003年4月
水島工場	2004年4月

## グループ環境監査状況

各生産拠点では、ISO14001に基づき、認証機関による「定期審査」のほか、年2回の内部監査を実施しています。2006年度は内部監査において、全体で改善指摘が30件、改善の機会が93件抽出され、改善に向けた取り組みを継続的に実施しています。また、外部の廃棄物処理施設については、各拠点合同で監査を実施、複数の視点から点検する体制を整えました。



ISO14001 定期審査

## 環境教育の実施状況

日清オイリオグループは、本社、生産拠点にて様々な環境関連の教育、ならびに資格取得のための教育・支援を行っています。今後、人事評価との連携、e-learningの導入、国内外のグループ企業への範囲拡大を検討しています。

### ● 2006年度に実施した主な環境教育 ●

分類	実施内容
一般教育	新入社員教育 部門別教育
ISO教育	環境マネジメントシステム教育 内部監査員養成セミナー 省エネ発表会
専門技能者教育	粉塵爆発講習 有機溶剤爆発講習 廃棄物処理関連講習 海上防除訓練



海上防除訓練（水島工場）

### ● 各拠点における資格保有者数（2007年3月31日現在） ●

名称	横浜磯子	名古屋	堺	水島	合計
ボイラー技士	69	31	23	43	166
ボイラー整備士	5	1	7	14	27
ボイラー・タービン主任技術者	1	5	0	1	7
危険物取扱者	208	81	54	60	403
公害防止管理者（水質）	6	4	7	17	34
公害防止管理者（大気）	5	5	5	5	20
エネルギー管理士	4	7	2	4	17
環境計量士	1	0	1	0	2
産業廃棄物中間処理施設技術管理者	4	0	0	1	5
ISO14001内部監査員	73	35	15	23	146

# 環境目標と実績

環境負荷低減に向けた活動を全社的なものとするために、  
環境目標を部門別に設定し環境活動の推進に取り組んでいます。

## ●環境目標および評価

テーマ	担当部門	中長期環境目標	2006年度の実績	実績評価	2007年度の取り組み
地球温暖化防止	生産	・生産工程の使用エネルギーについて、「CO <sub>2</sub> 排出量原単位」を、2010年までに88%に改善(1990年対比)	・CO <sub>2</sub> 排出量原単位:98% (1990年対比) →P.42	△	・CO <sub>2</sub> 排出量削減のための年度目標策定および実行
	物流	・拠点間輸送におけるCO <sub>2</sub> 排出量を2007年までに3%削減(2004年度対比)	・CO <sub>2</sub> 排出量:17%増加 (2004年度対比) →P.43	△	・改正省エネ法への対応(物流トンキロデータ算出および提出、エネルギー使用合理化対策策定など)
		・共同配送、配送効率化、モーダルシフトの推進	・静岡を共同配送エリア ・モーダルシフト率向上 ・物流品質の向上 →P.43	○	・共同配送のエリア拡大 ・さらなるモーダルシフト推進
廃棄物の削減	生産	・2010年度までに、生産工程でのゼロエミッションを達成	・生産工程での再資源化率:99.3% →P.44	○	・再資源化率のさらなる向上 ・最終処分量の低減
省資源	資材	・家庭用・業務用容器包装の減量化、減容化	・容器包装重量:2%削減 (2005年度対比) →P.44	○	・改正容リ法への取り組み推進(日本植物油協会自主行動計画)
環境関連商品・事業開発	開発	・廃食用油削減、副産物の有効利用、石油代替製品の開発など	・エコリオ事業における取り組み →P.8	△	・エコリオ事業の推進
オフィス関連	事務・管理	・オフィスでの電気使用量を、2006年度までに10%削減(2003年度対比) ・コピー用紙の使用量削減(ペーパーレス化、裏紙使用など)	・電気使用量:13%削減(2003年度対比) ・コピー用紙使用量:2%削減(2005年度対比) →P.46	○	・オフィス環境活動ガイドラインに基づく、活動継続

評価: ○順調に進捗、△改善が必要

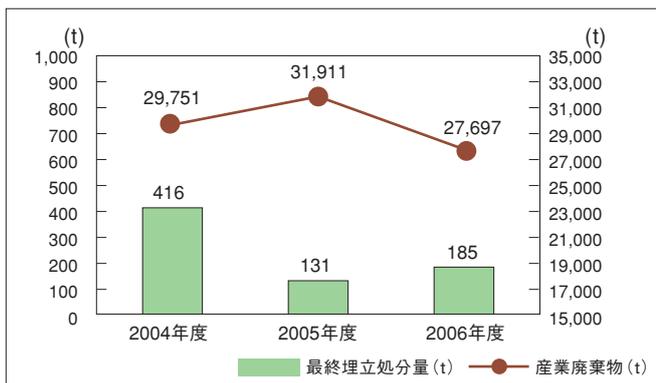
## ●環境マネジメントの基盤活動

推進内容	2006年度の取り組み内容	2007年度以降の取り組み
環境マネジメント	・国内ならびに海外(アジア)品質・環境マネジメント委員会の発足	・国内外グループ全体での環境基本方針を共有化 ・国内外グループ全体の従業員への環境教育の実施拡大 ・環境マネジメントシステムの取得推進
環境コミュニケーション	・CSR報告書の発行(2006年6月) ・コミュニケーションツールとして活用	・CSR報告書の継続的発行 ・コミュニケーションツールとして用途拡大

## 生産部門データ

4生産拠点の産業廃棄物量、最終埋立処分量、水使用量をグラフにしました。

### ●産業廃棄物量と最終埋立処分量●



### ●水使用量(上水・工水)●



お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

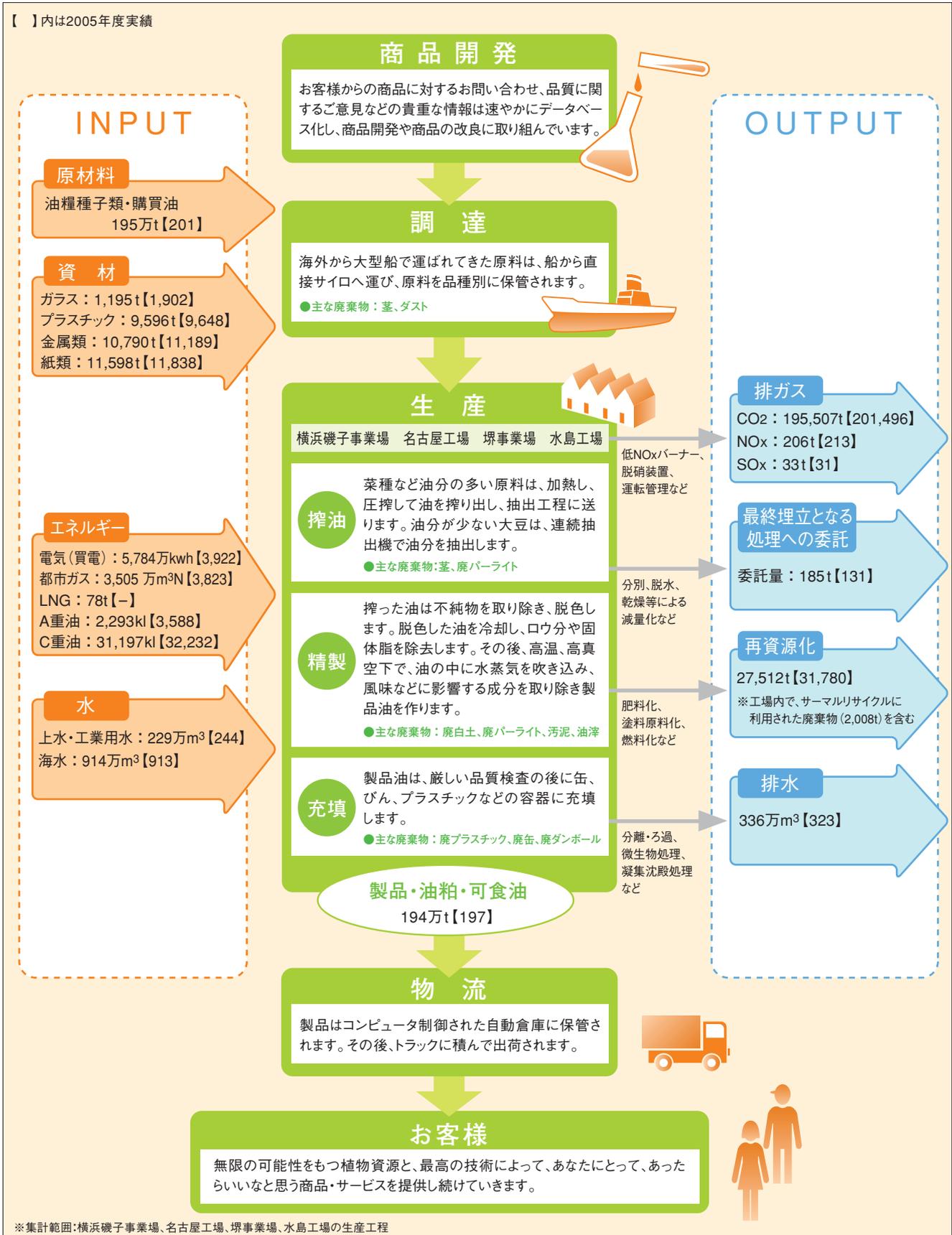
社会のために

環境のために

# 製品ができるまで

## ●製品ができるまで(2006年度)

【 】内は2005年度実績



お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

# 地球温暖化防止の取り組み

エネルギー消費量の多い事業特性を認識し、地球温暖化ガス排出削減の取り組みを積極的に推進しています。

## 生産部門での2006年度取り組み

### 取り組み目標

生産工程の使用エネルギーについて「CO<sub>2</sub>排出量原単位」を2010年までに1990年対比で88%に改善する。

### ボイラー燃料のLNG（液化天然ガス）への転換

名古屋工場のCO<sub>2</sub>削減の取り組みとして、精製工程で使用しているボイラー燃料をA重油からLNG燃料へ転換しました。LNGへの燃料転換により、CO<sub>2</sub>の削減はもちろん、ボイラー効率のアップにより精製工程のスタートアップ時間の短縮による省エネにもつながりました。



LNG燃料設備

### 製造時に発生する植物性廃油の燃料化

名古屋工場と水島工場では、地球温暖化の防止（カーボンニュートラル）、循環型社会の構築の一環として、製造工程で副産物として発生する植物性廃油を化石燃料に2～3%添加し、発電、蒸気用のボイラー燃料として使用しています。



植物性廃油混焼設備

### 省エネに関する小集団活動

横浜磯子事業場、名古屋工場、堺事業場、水島工場の各生産拠点で全員参加型の小集団活動を展開しました。生産活動を中心に、「CO<sub>2</sub>削減に向けたデマンド管理」、「コンプレッサーの省エネ」、「トラップ管理の強化」、「新エネルギーの研究・検討」など幅広いテーマで取り組んでいます。



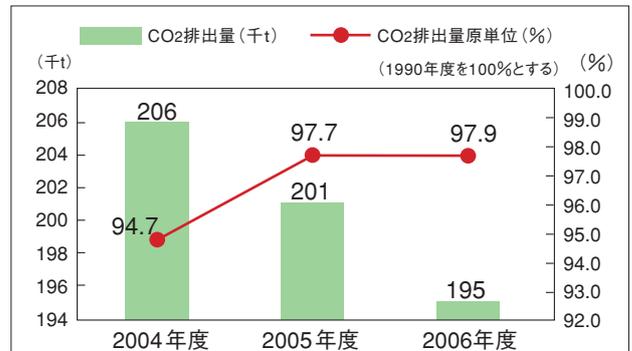
小集団活動発表会

### 評価と今後の展望

2005年度に比べCO<sub>2</sub>排出量は6千t削減できました。しかしながら、製品の品質向上のために一部生産拠点において工程の機能アップをしたことにより、ベースとなるエネルギー使用量が増加したため、CO<sub>2</sub>原単位はやや上昇しました。

今後の展望として、生産における稼働状況や製品品質の安定化への取り組みはもちろんのこと、省エネ改善の取り組み、一部生産拠点での燃料転換の検討を進めるなど、2010年削減目標達成を目指していきます。

### ●CO<sub>2</sub>排出量と原単位（1990年対比）の推移●



【原単位計算の前提条件】

※管理対象を生産工程（国内）とします。  
 ※原単位の計算方法は、次の算式による（日清オイリオグループの規定）。  
 $CO_2\text{排出量原単位} = \frac{\text{使用エネルギーの}CO_2\text{換算値}}{[\text{原料処理量}] + [\text{精製原料油処理量}]}$   
 使用エネルギー：生産工程で使用するエネルギー  
 原料処理量：抽出工程に投入する原料の量  
 精製原料油処理量：精製工程以降に投入する中間製品油の量  
 CO<sub>2</sub>換算値：各エネルギーをCO<sub>2</sub>換算係数により換算して加算したもの  
 CO<sub>2</sub>換算係数：「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」（環境省）および「電気事業連合会の電気の使用に伴うCO<sub>2</sub>排出係数」を使用  
 ※生産工程でのエネルギー使用量については、製油事業以外のエネルギーも含めて原単位計算を行っています。今後、製油事業以外の寄与が大幅に増加した場合等では必要な修正を行います。

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## 物流部門での2006年度取り組み

### 取り組み目標

拠点間輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量を2007年度までに2004年度対比3%削減する。

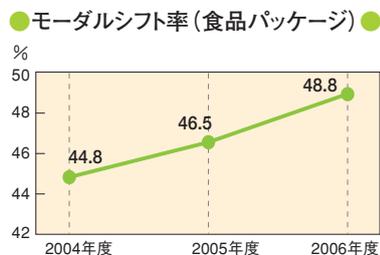
### 改正省エネルギー法への取り組み

2006年4月1日に改正省エネルギー法が施行され、年間3,000万トンキロ以上の物流を持つ荷主は、特定荷主として指定されました。特定荷主は2007年度より省エネルギーの対策計画書と定期報告書の提出が義務付けられます。日清オイリオグループは特定荷主としてエネルギー消費原単位値を5年間で5%以上削減することを目標に、データ集計と削減施策の検証を実施しています。

### モーダルシフトの推進

トラック輸送に比べCO<sub>2</sub>排出量が少なく大量輸送が可能な鉄道や船舶に、輸配送の手段を切り替える「モーダルシフト」を推進しています。食品パッケージ品について、2006年度の拠点間輸送でのモーダルシフト率は48.8%と2005年度に比べ2.3%向上しました。

また、バルク油の拠点間輸送についてもトラック輸送から船舶輸送へシフトしたことで、モーダルシフト率98.1%と前年に比べ3.4%向上しました。



### <エコレールマークの認定>

「エコレールマーク」とは、(社)鉄道貨物協会が環境にやさしい鉄道貨物輸送を一定割合以上利用している企業や商品であると認定するものです。日清オイリオグループは2005年9月に認定を受けています。



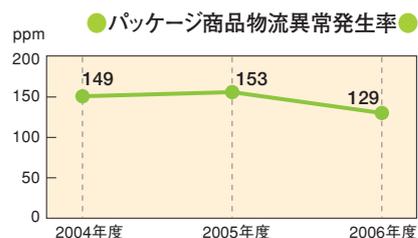
### <輸配送の効率化>

配送ロット規定や納入先限定等の取引条件と連携した物流の標準化を進めています。小ロット配送をなくし、一配送当りの配送数量をまとめることにより、配送車両、納品回数の削減を目指します。ミニローリー車では、地域毎の計画配送を行い効率化に努めています。また、商品毎に消費地に一番近い拠点での生産を推進し、消費と生産を連動させることで、遠隔地配送を削減し、配送距離を短縮しました。

### 物流品質の向上への取り組み

物流品質を向上し、再配送、緊急出荷等の非効率配送の発生原因となる誤納品、汚破損、延着などの物流異常の削減を推進しています。物流異常発生率は100PPM以下を目標とします。

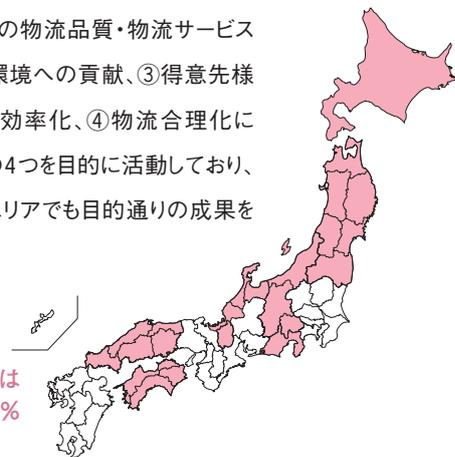
※PPMとは百万分の発生率(百万ケースあたりの物流異常発生率)



### 食品加工メーカー共同配送の実施

1995年2月にカゴメ、ミツカングループ、日清オイリオグループの食品メーカー3社による「食品加工メーカー共同配送研究会」を発足し共同配送の検討を開始しました。1996年の東北を初めに新潟、中国、四国、長野・山梨、北陸、滋賀、北海道、2006年度には静岡と共同配送エリアを拡大しました。3社の共同配送では、①得意先様への配送時の物流品質・物流サービスの向上、②社会環境への貢献、③得意先様での荷受業務の効率化、④物流合理化によるコスト削減、の4つを目的に活動しており、これまでの導入エリアでも目的通りの成果を挙げています。

共同配送エリアは全国の68%



### 評価と今後の展望

2006年度は配送方法の変更、各生産拠点の原料油種への拡大による物流効率化を図りました。また物流関連データも、より精度の高い管理が可能となりました。食品パッケージ品の拠点間輸送でのCO<sub>2</sub>排出量は、2006年度は2004年度対比117%と増加傾向にあります。これは2004年7月の合併による販売数量の拡大が主要因ですが、1トンキロ当りのCO<sub>2</sub>排出量は2004年度に対し、95%と向上しています。今後も環境負荷低減のため食品加工メーカー共同配送のエリア拡大、モーダルシフトのさらなる推進を目指していきます。

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

# 廃棄物削減の取り組み

省資源、再使用、再資源化の3Rによるゼロエミッションを目指して、工夫を重ねています。

## 生産部門での2006年度取り組み

### 取り組み目標

2010年までに生産工程でゼロエミッションを達成する。

#### <日清オイリオグループのゼロエミッションの前提条件>

- 管理対象：生産工程（国内）
- ゼロエミッションの定義：最終埋立て処分量が1%未満
- 対象：通常の生産活動およびメンテナンスなどで発生する廃棄物

### 取り組み内容

#### <廃棄物・リサイクルガバナンス事業に登録>

（社）産業環境管理協会の新事業で、廃棄物・リサイクルガバナンスの構築へ向け社内体制を整備している企業を登録するものです。事業所単位で自己評価、数値化し、評価点数に応じて格付け（ゴールド、シルバー、ブロンズ）します。当社では本社部門および横浜磯子事業場が、ゴールドクラスに登録されました。



以下の取り組みについては、継続的に推進しています。

#### <廃棄物削減>

- 廃水処理場から発生する汚泥を脱水機、乾燥機により減量化（各生産拠点）
  - 廃油や可燃廃棄物を廃熱回収型焼却炉で焼却、減量化（横浜磯子事業場）
- ※焼却炉から発生するダイオキシン類については、法規制に従い管理し、問題がないことを確認しております。

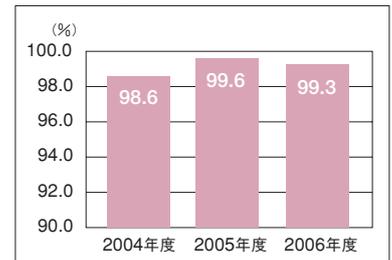
#### <廃棄物再資源化>

- 汚泥を肥料化し、肥料登録を実施（横浜磯子事業場）
- 廃白土の肥料化（各生産拠点）
- 廃プラスチックを焼却せずに分別・減容圧縮し、固形燃料化するサーマルリサイクル（横浜磯子事業場、堺事業場）

### 評価と今後の展望

2006年度の再資源化率は、各生産拠点の取り組みにより99.3%となり、昨年に引き続き目標を達成しています。今後とも、廃棄物の徹底した分別と、より有効な廃棄物の再資源化方法の検討を継続していきます。

#### ●廃棄物再資源化率●



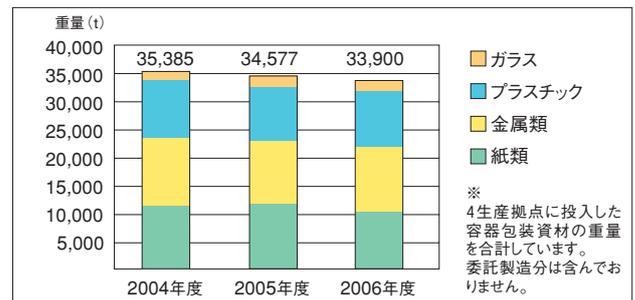
### 容器包装における取り組み

日清オイリオグループは、お客様に満足していただける品質を備え、最新の技術を取り入れ、環境にやさしい容器を開発するよう取り組んでいます。容器の減量・減容化も積極的に推進しており、減量化では1500gポリボトルをはじめ、700gポリボトル、ごま油・ドレッシング用ガラスビンの軽量化を実現しました。また、減容化でも、業界に先がけ1999年に折り畳み機能付きポリボトルを開発しています。お客様の声を反映した容器の改善事例につきましてはP.27をご参照ください。

### 容器包装リサイクル法の改正に伴う対応

2006年5月、（社）日本植物油協会において、「植物油製造業における容器包装3R推進のための自主行動計画」が策定されました。この中で、2010年度までに、プラスチック製の主力容器の重量を2004年度対比で1本当たり1.5～2%削減することを目標に掲げ、業界全体として容器包装を削減することを宣言しています。今後は、1300gポリボトルをはじめ、これまで取り組んでいなかった容器の減量化を目標に開発を進めます。

#### ●容器包装重量の推移●



お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

# 環境リスクマネジメント

環境リスクマネジメントに取り組み、環境法令の遵守、環境事故の未然防止に努めています。

## 2006年度の取り組み

### 法令違反・お問い合わせの状況

各生産拠点では、大気・水質汚染物質の常時監視、土壌サンプル採取による土壌汚染監視などを実施しています。2006年度は、これらに関する法規制の違反はありませんでした。

また、各生産拠点へのお問い合わせなどは、2006年度は臭気に関するものが1件でした。いただいた情報を元にそのつど迅速な対応を行い、また対策についてもご説明しています。

### 大気汚染物質の管理

- ボイラー排出ガスのO<sub>2</sub>を管理、低酸素燃焼させることによるNO<sub>x</sub>の低減(各生産拠点)
- 低NO<sub>x</sub>バーナーの採用によるNO<sub>x</sub>の低減(各生産拠点)
- アンモニアを使用した脱硝装置の設置によるNO<sub>x</sub>の低減(横浜磯子事業場、名古屋工場)

- 脱硫装置に水酸化マグネシウムを使用した吸収塔を採用し、SO<sub>x</sub>を低減(名古屋工場、水島工場)



排煙脱硫装置(名古屋工場)

- 大気汚染物質を常時監視して環境基準値を遵守(各生産拠点)

### 水質汚濁物質の管理

- 廃水処理設備の維持・管理(各生産拠点)
- 窒素・リン連続監視装置による水質汚染物質の管理(各生産拠点)
- 新規排水濾過器の導入(横浜磯子事業場)
- 負荷量演算器の更新(名古屋工場)
- 合併式浄化槽の更新(水島工場)

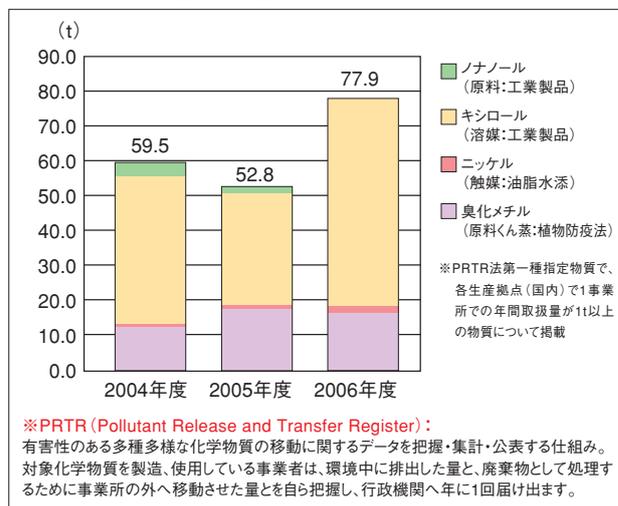


排水濾過器

### 化学物質の管理

各生産拠点で使用する化学物質については、法規制に基づいて適正な管理を行っており、購入量と使用量の管理を徹底しています。各生産拠点で扱うPRTR法第一種指定物質の排出量・移動量は以下の通りです。また、PCBについても保管場所を決め、適正な管理を実施しています。

#### ●化学物質排出量・移動量●



### 海洋汚染防止法への対応

OPRC-HNS議定書(油による汚染に関わる準備、対応および協力に関する国際条約)発効にともない、国内における海洋汚染防止法が2007年4月1日改正・施行されました。日清オイリオグループは、国内の全生産拠点とストックポイントにおける有害液体汚染防止緊急措置手引書の作成・備え置きおよび防除器材の配置対応を終了しました。あわせて作業に携わる全従業員への教育および内航海運業者の方々に周知を図り、不測の事態への体制を整えました。



防除器材

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

# 管理部門での環境活動

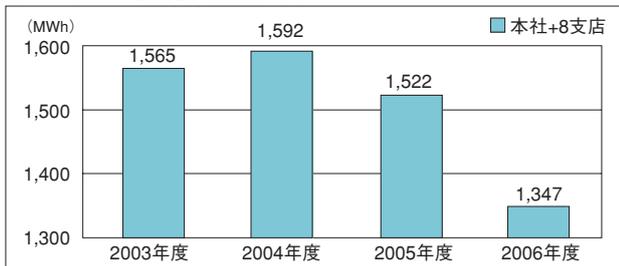
細かな工夫を重ねて、オフィス用紙や電気使用量の削減に努めています。

## 管理部門での2006年度取り組み

### 電気使用量の削減

- 目標：2006年度までに、  
オフィス電気使用量を2003年度実績比10%削減
- 活動内容：
  - ・夏期における「クールビズ」実施
  - ・本社ビルにて省エネ型空調機器への切り替え
  - ・照明や空調など全館制御からフロア制御へ変更
- 実績と評価：目標最終年度である2006年度のオフィス電気使用量は、2003年度比で13%減少となり、目標を達成しました。今後の活動を見据え、新たな目標として、2010年度までにオフィス電気使用量を2006年度比で3%削減を目指します（2003年度比では15%削減）。

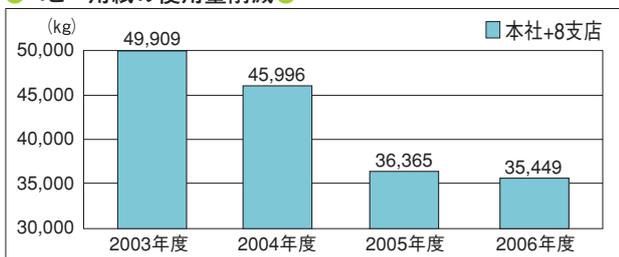
#### ●オフィスの電気使用量削減●



### コピー用紙使用量の削減

- 目標：帳票の見直し、電子化、データベース化、両面コピーの推奨などによる使用量の削減
- 活動内容：
  - ・会議資料、保管資料などの両面コピーの徹底
  - ・従業員への両面印刷・割付印刷方法の周知徹底
  - ・電子化、データベース化によるペーパーレス推奨
- 実績と評価：2006年度のコピー用紙使用量は継続的な活動により2005年度比2%削減と着実に成果をあげています。

#### ●コピー用紙の使用量削減●



### 紙ゴミの削減

- 目標：分別化、減量化によるゴミ排出量の削減
- 活動内容：
  - ・紙ゴミをコピー用紙、トイレットペーパー、段ボールに再生するため、紙資源リサイクルを徹底
  - ・カタログ、冊子類の適正在庫管理による廃棄物削減

### チーム・マイナス6%に参加

2006年度より、日清オイリオグループは、政府が推進する地球温暖化に向けた国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」に参加しています。このプロジェクトに参加することで、従業員の環境意識向上や企業として環境保全活動へ取り組む姿勢をより明確にしていきたいと思います。



### グリーン購入

オフィスで使う文具・事務機器のグリーン購入を積極的に進めています。環境への負荷が少ない製品やサービスの優先的購入を進める全国ネットワーク「グリーン購入ネットワーク」に参加しています。



「日清オイリオグループ株式会社はグリーン購入ネットワークの会員です」

### 今後の展望

2006年度は従業員の環境意識向上のための施策をいくつか実施するとともに、インフラの整備、更新を進めてきました。今後は電気使用量・廃棄物・水道使用量の削減、グリーン購入、営業車の運行などは「オフィス環境活動ガイドライン」の施行・運用により、系統的・持続的な環境活動を推進します。また、オフィスビルの省エネ診断などの実施により、さらにポイントをしばった活動を計画していきます。

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

# 環境関連投資・費用・効果

## 環境会計について

環境に対する投資・費用やその効果を集計し、情報公開を行うとともに、当社の環境への各種施策の効果測定を行うことが重要であるという考えから、環境会計への取り組みを行っております。

今後、社会的基準の確立をにらみながら、当社の基準の修正を行うとともに、環境効果把握とコストバランス評価を行い、効果的な環境施策の実施へとつなげていく予定です。

### [環境保全コスト]

単位：百万円

分類	環境保全コスト分類 主な取り組みの内容およびその効果	投資額		費用	
		2005年度	2006年度	2005年度	2006年度
1. 事業エリア内コスト		415	131	1,007	983
①公害防止コスト	大気汚染防止/水質汚濁/悪臭防止	27	97	402	469
②地球環境保全コスト	温暖化防止/オゾン層破壊防止/省エネルギー	289	15	158	89
③資源循環コスト	産業廃棄物の減量化、削減、処理、処分/ 事業系一般廃棄物の減量化/削減、処理、処分	100	19	446	425
2. 上・下流コスト	容器・包装等のリサイクル・回収・再商品化/製品等の設計変更	—	24	331	394
3. 管理活動コスト	社員への環境教育/ISO14001プロジェクト/環境対策の人件費	—	—	91	108
4. 研究開発コスト	環境保全に資する製品等の研究/開発に関わる人件費	—	—	55	57
5. 社会活動コスト	事業所内および周辺の緑化、美化、景観等の環境改善対策	—	—	7	1
6. 環境損傷対応コスト		—	—	15	11
合計		415	155	1,505	1,554

※集計の前提条件 ①集計値は各年度(4月～3月)の実績  
②費用分類は「環境会計ガイドライン(2005年版)」に準拠  
③環境関連として確実な投資や費用(他の要素をほとんど含まず)の範囲に留めている。

## 環境保全効果

### [エネルギー使用量低減効果]

	単位	2005年度	2006年度	増減	前年比(%)
電気(買電分)	万kWh	3,922	5,784	1,862	147.5
A重油	kl	3,588	2,293	△1,295	63.9
C重油	kl	32,232	31,197	△1,035	96.8
L N G	t	0	78	78	—
都市ガス	千m <sup>3</sup> N	38,225	35,050	△3,175	91.7
換算CO <sub>2</sub>	t	201,496	195,507	△5,989	97.0

### [廃棄物排出低減効果]

	単位	2005年度	2006年度	増減	前年比(%)
廃棄物等の排出(最終埋立処分量)	t	131	185	△54	140.8

### [環境投資による経済的効果]

環境保全対策に伴う経済効果		
費用節減	効果の内容	金額(百万円)
		省エネルギーによるエネルギー費の節減

※数値は全て横浜磯子事業場、名古屋工場、堺事業場、水島工場の合算値  
※「廃棄物等の排出」は産業廃棄物および特管物の発生量より再生分を差し引き、最終的に埋立て処分を行った数量  
※「省エネルギーによるエネルギー費の節減」の金額は「エネルギー使用量低減効果」における各エネルギーの使用削減に基づいた節減額(プラスの数値は節減、マイナスの数値は増加)

# 生産部門の概要

## 横浜磯子事業場



横浜磯子事業場は、6万5千トン級の大型外航船が接岸できるバース、11万トンの原料（大豆換算）を保管するサイロを持ち、原料輸入・搾油・精製・充填・製品出荷までの一貫生産を行っています。また、ファインケミカル、大豆たん白などの事業部門を擁し、優れた技術で製品を作り出す生産機能と、自動化物流倉庫などの物流機能、新しい価値を生み出す開発機能などもあわせ持つ複合事業体として進化し続けています。

項目	2004年度	2005年度	2006年度	
CO <sub>2</sub> 排出量 (t)	73,887	76,239	72,724	
産業廃棄物 (t)	9,962	9,699	8,766	
最終埋立処分量 (t)	95	12	12	
再資源化率 (%)	99.0	99.9	99.9	
大気	NOx (t)	81	69	67
	SOx (t)	8	5	5
水使用量 (上水・工水) m <sup>3</sup>	1,292,410	1,256,868	1,139,152	
排水	COD (t)	27	23	9
	リン (t)	0.2	0.2	0.1
	窒素 (t)	4	4	2

- 所在地：神奈川県横浜市
- 敷地面積：233,000m<sup>2</sup>
- サイロ：111,000t
- 食用油充填ライン：14ライン
- 使用燃料：都市ガス
- 廃棄物処理施設：焼却炉・脱水機（廃水処理場）
- ばい煙発生施設：ボイラー・ガスタービン・焼却炉
- 特定施設：洗浄施設・焼却施設・蒸留施設など

## 名古屋工場



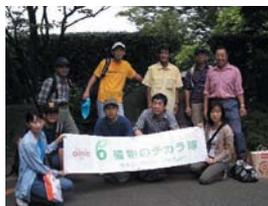
中部地区の生産拠点として名古屋工場は名古屋港の中央部に位置し、最大7万7千トンの大型外航船の接岸ができるバースを持ち、輸入原料の荷揚げから搾油・精製・充填・製品の出荷まで行っています。最新鋭の設備を駆使したラインは自動化され、優れた技術と厳しい品質管理のもと、高品質の製品を日夜送り出しています。

項目	2004年度	2005年度	2006年度	
CO <sub>2</sub> 排出量 (t)	70,294	66,772	65,174	
産業廃棄物 (t)	5,918	6,451	5,543	
最終埋立処分量 (t)	126	30	41	
再資源化率 (%)	97.9	99.5	99.3	
大気	NOx (t)	84	84	70
	SOx (t)	14	10	12
水使用量 (上水・工水) m <sup>3</sup>	601,636	578,095	567,308	
排水	COD (t)	35	26	19
	リン (t)	1.2	0.6	0.6
	窒素 (t)	6	6	7

- 所在地：愛知県名古屋市
- 敷地面積：98,800m<sup>2</sup>
- サイロ：74,500t
- 食用油充填ライン：9ライン
- 使用燃料：LNG、A重油、C重油
- ばい煙発生施設：ボイラー・ディーゼル発電機など
- 特定施設：排水処理装置

### VOICE

日清オイリオグループ(株)  
横浜磯子事業場  
「オイリオ 植物のチカラ隊」



環境コミュニケーション活動の一環として、横浜磯子事業場の環境保安・ISOグループを中心に「オイリオ 植物のチカラ隊」を結成し、自然保護ボランティア活動を行っています。雑木林の下草刈りや雑草の除去を中心に、自然の力が最大限に発揮できるようにお手伝いをしてきました。地域の中で少しでも緑が多くなればと思います。

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## 堺事業場



堺事業場は西日本地区の生産拠点として2万トン級バースを保有し内航船や外航船で運ばれてきた原料油などを受け入れています。近年は従来の油脂に加えパームなどの南方系油脂も増加しており、それらは事業場内のタンクに保管されます。原料油などは小ロットから大ロットまで最新の管理のもと、精製から充填・出荷までの一貫体制で各種製品をお客様にお届けしています。

項目	2004年度	2005年度	2006年度	
CO <sub>2</sub> 排出量 (t)	7,618	7,992	9,310	
産業廃棄物 (t)	8,106	10,175	8,531	
最終埋立処分量 (t)	50	45	30	
再資源化率 (%)	99.4	99.6	99.6	
大気	NOx (t)	8	7	6
	SOx (t)	0.0	0.0	0.0
水使用量 (上水・工水) m <sup>3</sup>	76,913	88,226	93,251	
排水	COD (t)	1	1	1
	リン (t)	0.0	0.0	0.0
	窒素 (t)	0.4	0.3	0.2

- 所在地：大阪府堺市
- 敷地面積：39,700m<sup>2</sup>
- サイロ：なし
- 食用油充填ライン：10ライン
- 使用燃料：都市ガス
- 廃棄物処理施設：脱水機（廃水処理場）
- ばい煙発生施設：ボイラー、ガスエンジン発電機
- 特定施設：洗浄施設・分離施設

## 水島工場



水島工場は瀬戸内海に面した倉敷市に立地し、6万5千トン級の大型外航船が接岸でき、原料輸入・搾油・精製・充填・製品出荷までの一貫生産を行っています。優れた技術と厳しい品質管理のもと高品質の製品を生産すると共に、瀬戸内海の環境保全に配慮したより厳しい法規制のもとで操業しています。また、搾油後の脱脂大豆は家畜用の配合飼料に、菜種油粕は配合飼料のほか、肥料として西日本各地に出荷されています。

項目	2004年度	2005年度	2006年度	
CO <sub>2</sub> 排出量 (t)	54,187	50,439	48,299	
産業廃棄物 (t)	5,765	5,586	4,858	
最終埋立処分量 (t)	145	45	101	
再資源化率 (%)	97.5	99.2	97.9	
大気	NOx (t)	52	52	63
	SOx (t)	24	16	16
水使用量 (上水・工水) m <sup>3</sup>	511,332	517,066	486,988	
排水	COD (t)	4	4	3
	リン (t)	0.2	0.1	0.1
	窒素 (t)	1	1	1

- 所在地：岡山県倉敷市
- 敷地面積：113,800m<sup>2</sup>
- サイロ：54,340t（大豆換算）
- 食用油充填ライン：3ライン
- 使用燃料：A重油、C重油
- 廃棄物処理施設：脱水機（廃水処理場）
- ばい煙発生施設：ボイラー
- 特定施設：洗浄施設・分離施設

## VOICE

日清オイリオグループ(株)  
水島工場  
環境保安グループ  
武政 正



工場内外の環境保全に関する取り組みを行っています。法規制遵守は当然のこととして、ISO14001環境マネジメントの取り組み、特にエネルギー設備更新への助言や廃棄物低減、リサイクル率の向上を推進しています。また、地域との環境コミュニケーションの一環として工場周辺の清掃活動を定期的実施しており、外部諸団体の清掃活動にも積極的に参加しています。

お客様とともに

取引先様とともに

株主・投資家の皆様とともに

従業員とともに

社会のために

環境のために

## CSR活動のあゆみ

	主な項目	環境報告書/CSR報告書
1990年度 以前	お客様相談窓口の設置 安全・防災会議の設置 横浜磯子春まつりを毎年開催 神奈川マラソンに協賛 ベルマーク運動に参画	
1991年度	「環境問題委員会」発足	
1993年度	「環境理念」「環境方針」策定	
1995年度	生活科学研究室の第1回報告書発行 横浜磯子事業場にガスコージェネレーション設備を導入	
1996年度	食品企業3社による共同配送スタート	
1997年度	語学研修制度導入 日清製油(株)ISO9001認証取得	
1999年度	環境保全への取り組みレポート作成・配布 名古屋工場ISO9002認証取得 水島工場ISO9002認証取得	
2000年度	経営理念の制定 「品質・環境マネジメント委員会」発足 横浜磯子事業場ISO14001認証取得 プロフェッショナル人事制度導入	初めての環境報告書 「日清製油環境報告書2000」を発行
2001年度	情報セキュリティ規程の制定 大連日清製油有限公司ISO9001認証取得	「日清製油環境報告書2001」発行
2002年度	日清製油(株)、リノール油脂(株)、ニッコー製油(株) の3社が経営統合し、日清オイリオグループ誕生 日清オイリオグループ行動規範の制定 張家港統清食品有限公司ISO9001認証取得 特定保健用食品、体に脂肪が付きにくい「ヘルシーセッタ」を発売	「日清製油環境報告書2002」発行
2003年度	企業倫理委員会発足 企業倫理ホットラインを設置 堺事業場ISO14001認証取得 堺事業場にガスコージェネレーション設備を導入 名古屋工場ISO14001認証取得	「日清オイリオグループ 環境報告書2003」発行
2004年度	日清オイリオグループ(株)、日清オイリオ(株)、リノール油脂(株)、 ニッコー製油(株)の4社が合併して、新生・日清オイリオグループ(株)がスタート リスクマネジメント委員会発足 防災基本規程の制定 水島工場ISO14001認証取得 中国品質保証委員会発足 特例子会社「日清オイリオ・ビジネススタッフ株式会社」を設立	「日清オイリオグループ 環境報告書2004」発行
2005年度	CSR基本方針の策定 CSR委員会発足 内部統制システム構築に着手 個人情報保護方針を制定 定年退職者再雇用制度の策定 ISO9001の全社統合認証取得 上海日清油脂有限公司ISO9001認証取得 (財)日本オリンピック委員会(JOC)とオフィシャルパートナーシップ締結 携帯電話でのIR情報配信開始	「日清オイリオグループ 環境報告書2005」発行
2006年度	日清オイリオグループ行動規範の改訂 国内グループ企業とアジアの品質・環境マネジメント委員会発足 廃棄物・リサイクルガバナンス事業へ登録 チーム・マイナス6%に参加 商品情報データベースI-base運用開始 日清サイエンス(株)ISO22000認証取得	初めてのCSR報告書 「日清オイリオグループ CSR報告書2006」を発行
2007年度	内部統制システム運用開始 ボランティア休暇制度の導入	「日清オイリオグループ CSR報告書2007」を発行

## 第三者所感

株式会社トーマツ  
環境品質研究所  
代表取締役  
古室正充



日清オイリオグループ株式会社「CSR報告書2007」（以下報告書という）を拝見し、所感を述べさせていただきます。なお、本所感は、報告書に記載されている情報の正確性等につき、一般に公正妥当と認められる基準を判断基準として第三者審査意見を述べるものではなく、かつ、その他保証又は証明を行うものではありません。

### 1. 企業経営の一環としてのCSR活動

トップコミットメントにおいて、CSRを経営理念の実現を通じて「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」と捉えられております。この考え方に基づき、「次の100年に向けて」の創業期として策定された「10年経営基本構想“GROWTH 10”」において、目指すべき企業像の一つとして、「CSR活動による社会・環境への貢献」が取り上げられております。また、“GROWTH 10”の考え方は、今後10年間の各フェーズにおける中期経営計画への反映をコミットされています。

更に、「CSRに対する取り組みの基本方針」にて、従来から周知徹底を図られている「日清オイリオグループ行動規範」を「CSRに対する取り組みの行動指針」と位置づけられている点の記載がなされております。

このように企業経営の一環としてCSRを位置づけることは、CSR活動の定着化と継続改善を通じた企業の持続的発展に有効と思えます。

### 2. 報告書の進化に向けて

報告書として、今回は2回目の発行となります。

昨年度と比較して、ステークホルダーとの関係について、「ステークホルダーの皆様からの期待と私たちの活動方針」、「VOICE」等の新設から創意工夫が窺えます。

特に「ステークホルダーの皆様からの期待と私たちの活動方針」は、CSRに対する社会的関心が高まる中、取り組むべき方向性を明確にし、トップコミットメントに示されている「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」という視点での整合性を図る説明としても有益かと思えます。

また、「日清オイリオグループの海外展開」において、アジア各地で事業を展開していることが紹介されております。この点は、“GROWTH 10”の目指すべき姿においても、「国際的企業への飛躍」が掲げられ、ますます海外グループでの事業の積極展開が予想されますので、更なる開示を期待しております。この開示情報として、海外グループでのCSR活動事例をはじめ、海外グループを含めた日清オイリオグループ全体のCSR活動の方向性やパフォーマンス等の記載を充実されてはいかがでしょうか。

CSRテーマの記載スタイルについては、「環境のために」の章で記載されております「目標→取り組み→評価→今後の展望」と他のテーマにおけるスタイルの統一感が不十分かと思えます。

「環境のために」の章における記載スタイルは、マネジメント姿勢を明確にしていると言えます。企業経営の一環としてのCSRの推進という面からこの記載スタイルをその他のテーマについても統一的に採用を検討されてはいかがでしょうか。

### 3. さいごに

報告書はCSR活動の鏡と考えることができます。

今後とも、企業経営の一環としてCSRを位置づけられ、経営の透明性の確保・向上としての意味で報告書を発行されて、活動の改善・報告書の進化を図られることと思えます。

経営理念の実現を通じて「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」という日清オイリオグループのCSRを社内外で誠実に推進され、ますます発展されることを期待しております。

## 編集後記

CSR報告書として、今回は2回目の発行となりました。

昨年はCSR活動周知のために以下の取り組みを実施しました。

### ①CSR報告書配布、公開

- ・報告書 発行部数13,000部  
グループ従業員2,500部、株主様1,100部、全国図書館へ2,800部、  
資料請求者様800部、その他5,800部

- ・ホームページ上での公開

<http://www.nisshin-oillio.com/company/csr/houkoku.shtml>

### ②従業員向けに読み合わせ会を実施

国内外の事業場、工場、支店などの拠点13会場にて延べ15回にわたり読み合わせ会を実施しました。総参加者数は449名でした。

CSR報告書2006に対して、以下のようなご意見をいただきました。この報告書作成にあたり、いただいたご意見を可能な限り反映するように努めました。

- 専門語の解説がほしい
- レイアウトに工夫がほしい
- 従業員関連の情報が少ない
- 食育についてどのように取り組んでいるのか

### CSR報告書2007における変更、修正点

CO<sub>2</sub>換算係数の変更のためCSR報告書2006で報告した数値を変更しました。

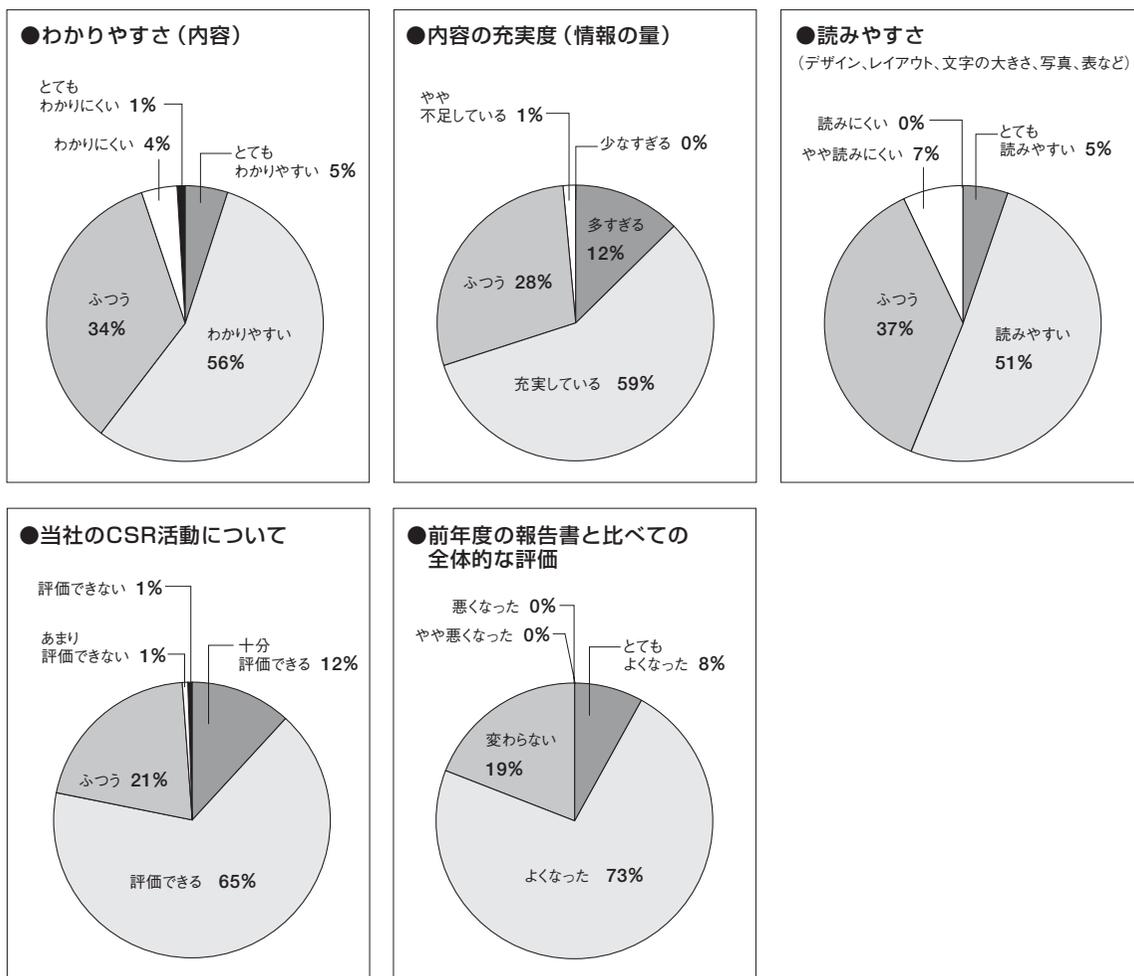
なお、この修正により、これまでにご報告しました実績が大きく異なるということはありません。



# CSR報告書2006 アンケート集計結果

2006年6月に発行した「CSR報告書2006」に対して、多くの皆様からご意見・ご感想をいただき、誠にありがとうございました。アンケート結果をご報告いたします。

## ●本報告書をお読みいただいた感想●



## ●印象に残った項目、関心を持たれた上位項目 (複数回答) ●

1. 特集1 中鎖脂肪酸を通じた社会貢献
2. トップコミットメント
3. CSRの6つのテーマ
4. 地球温暖化防止への取り組み
5. 廃棄物削減

NISSHIN  
**oillio**

“植物のチカラ”



日清オイリオグループ株式会社

〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号  
お問い合わせ先: 広報・IR部 TEL.03-3206-5109  
ホームページアドレス <http://www.nisshin-oillio.com>



古紙配合率70%再生紙を使用しています。



この報告書は、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。またインキは、揮発性有機化合物を含まない大豆油のNon-VOCインキを使用しています。